



Handwritten text on a page with vertical red lines. The text is written in vertical columns from right to left. The main title is '半溪氏英倫銀行書' (Handwritten by Mr. Hanyu, English Bank Book). Below it is '上編' (Upper Edition). The number '800' is printed at the bottom right of the page.



414  
A1130

老漢氏

英倫銀行昏



前日トトルボロニ於テ銀行事務ノ講義ヲ  
 授セシガ再ニ之ヲ上梓スルヲ請ハル、  
 数ナリ抑銀行ニテ取扱フ事務ヲ説明スルノ昏世上  
 ニ稀ナレハ余カ講義ノ聲價高ノレテ其実ニ浮ルセ  
 亦宜ナリ此昏ニ説ク処ノ理ハ銀行事務ヨリ多分ハ  
 經濟論ニ屬スヘシ然リト虽此是亦マツクロツキ氏ノ説  
 ヲ引用スルモノナレハ此講義ノ実價ノリトスル所  
 ハ唯其本昏ヨリ謄録スルノ勞ノミ然レ此余ハ此請  
 ヲ拒ミ難ク却テ欣然トシテ之ヲ再版ニ附セレノヲ  
 リ何トナレハ目今銀行ト通貨トニ関スル我カ財政  
 ノ論題ニ對テ世人ノ意ヲ注ク、大ニナルノ時ナレ  
 ハ一二ノ緒論ヲ述ヘテ世人ニ問フノ好機會ヲ余ニ

大正十一年四月  
大塚侯爵邸寄附

興フルヲ以テナリ

世人ノ銀行ノ尤ハルモノ大抵銀行ハ当國ニ行ナリ  
ニ適當ナル銀行法ヲ遵守レ昔テ其完全ナル道理ニ  
背ハ、世人ノ望ニ副レテ其義務ヲ尽サシムルヨリ起  
ルノ事由ヲ明了ナラレムルハ余カ希望スル所ナリ  
銀行ノ所務ヲ識認セント欲セハ千八百四十年ノ  
條例施行以來取締後ハ通貨ノ一部クハ銀行紙幣ヲ  
管督スルノ權利ヲ表シ國內ニ流通スル貨額ニ係リ  
テハ更ニ干渉スルヲ得サルトテ讀者ハ常ニ記臆シ  
テ忘ルベカラス此事ニ付テ銀行ノ職掌ハ唯五リガ  
レ一ニ珥磅以上ノ江拂アルキ金貨ノ代リニ紙幣ヲ  
以テ押渡レ或ハ又地金ノ代リトナレ而レテ紙幣ヲ  
持券トテ之カ引替ヲ請求スルキハソダハレトシテ且

フルル一事アルノミ

銀行ニテハ純金二十四分ノ二十ニ品位ヲ保テル  
金一割ニ混合物ノ一オンスニ付三磅十七時令九邊士  
ノ割合ヲ以テ地金ヲ紙幣ト交換ス是レ法制上然ラ  
サルヲ得サルモノナレ此一事アルニ因テ通常銀行  
ニテハ三磅十七時令九邊士ノ割合ヲ以テ地金ヲ買  
入ルト稱ス然レ其脚モ通常ノ賣買ニ類シ  
ル所無シ地金ト引替ニ出シタル紙幣ハ買入ノ代價  
ニアラスレテ却テ地金受取各ノ性質ヲ存セリ  
今余銀行ハ法制上地金ヲ持参スルキハ之ヲ買取ラ  
サルヲ得ズ而レテ紙幣ヲ持参シテ交換ヲ要スルト  
キハ又金貨ヲ與ヘザルヲ得スト述ヘメシガ其方  
法ハ次ノ如シ

大蔵省

假令ハ一千オンスノ地金ヲ所持スル者之ヲ貨幣ニ  
化セント欲スルハ本人ヲ便互ニ依リ造幣所ニ送  
送レテ金貨ニ換フルヲ得ベレ若シ造幣所ニ送ス  
ルキハ同所ニ於テ試験分折シ地金一オンスニ付三  
磅十七時令十過士半ノ割ニ鑄造シ雜費ナシ之ヲ  
本人ニ下付スベシ此鑄造ノ金貨ハ本位量目(即チ純  
金二十四分ノ二十二)ノモノナリ然レモ如此ノ所  
持人ニ在テ甚ク煩ハシク且造幣所往復ノ運送鑄造  
スル間ノ利息亦許多ノ費ハアルガムニ通例所持人  
ハ之ヲ造幣所ニ送送セシテ銀行ニ送送ス而シテ  
銀行ハ法制上一オンスニ付三磅十七時令九過士  
割ヲ以テ買取ラサルヲ得ズ所持人ハ時間ヲ費マナ  
ス地ニ雜費ヲ省キテ大ニ其便利ヲ得ヨリ一ペニ

半ハ差ハアリ凡決シテ之ヲ意トナサズ銀行ニ向  
テ紙幣ノ交換ヲ要スルハ直ニ金貨ヲ以テ仕拂  
ハザルヲ得ズト雖モ當國ノ社会平常ノ商業ニ於テ  
ハ千七百万磅乃至ハ千八百万磅ノ銀行紙幣常ニ世  
間ニ流通スルヲ要スルニ銀行ニテハ其發行紙幣  
ノ内千四百万磅丈ケハ公債ニ使用シ其利息ヲ自家  
ノ用ニ充ツルヲ許セテ後遂ニ其高ヲ増加シテ千  
五百万磅トナセリ銀行ニテハ此特例アルガ為メ政  
府ニ納金ヲナシ又政府ハ政府ノ代  
北政ニ府ニ非ス此ノ故ニ政府ハ人民ノ代理  
トモノハ之ヲ受納スルノ權アリ此納金ハ方今殆  
ト年ニ二十万磅ニ上レリ是全ノ銀行紙幣發行ニ付  
人民御政ニ府ニ利得トス

右千五百万磅ノ外ハ其発行高文ケノ金ヲ倉庫ニ貯  
ハハザルヲ得ル而シテ其発行定額ニ踰ルキハ毎週  
貯蔵ノ金額ヲ公告セザルヲ得ズ

千八百四十四年ノ條例ノ主旨ト條款トハトール  
氏其道理実験ニ付著述セル骨中ニ左ノ如ク説明セ

千八百四十四年ノ增補條例ノ主眼ハ銀行紙幣ノ  
交換ヲ保安スルニアリ旧制ニ遵據セシキヨリハ  
一層紙幣ノ流通ヲ穩固ナラシムルニテリ貨紙兩  
幣混同流通ノ今日ヲレテ獨リ金貨ノ流通セレ  
時ト同一理ニ沿ヒ其通貨ヲシテ時ニ擴張収縮セ  
レムルニアリ○此目的ヲ遂ケン為メニ其條例ニ  
謂ルアリ曰ク銀行事業ハ二部ニ區別スベシ其

一ハ金ノ紙幣ノ發行流通交換ニ從事レ其一ハ

預金割引等通常ノ事務ニ從事スベシト又曰ク銀

行ノ發行部ヨリ發行スル即時拂ノ紙幣ニシテ準

備ノ地金ヲ以テ表セザルモノハ銀行高ニ充ル紙幣

ハ金則テ準備高ヲ表スル可キ地金千四百万磅ニ超

エベカラスト又曰クインダラント並ニウエール

ズ中ノ郡邑銀行ニテ發行スル高ハ八百万磅ニ限

リトスヘシト而レテ之ヲ總ベテ曰ク右ノ定限ノ  
題ヘテ銀行紙幣ヲ流通セシメント欲セハ發行高  
ノ正金又ハ地金ヲ貯蔵レ之ヲ紙幣引替ノ準備ト  
スベシト

右千八百四十四年ノ條例ハ左ノ道理ニ基ツキテ  
規定セシモノナリ

大蔵省

第一實際ニ障碍ナク全ノ交換レ得ヘキ紙幣ノ高  
ハ法制官ノ議定ト銀行ノ規則トニ由ルモノニア  
ラズレテ廣ク世界ノ高國中ニ金銀ノ散布スル自  
然ノ平均法ニ由ルモノナリ  
第二一時ノ原因ヨリシテ貨紙混行ノ通貨ハ平均  
法ノ定位ヲ超ヘテ多クナルトテ紙幣ノ一部  
ハ正金引換ノ為ノ再々發行人ヘ歸リ來ルヲ以テ  
終ニ又平均ニ復ス  
第三一時ノ原因ヨリ通貨減少シテ平均法ノ點ニ  
及バザルハハ金銀外國ヨリ輸入レテ終ニ又平均  
ニ復ス  
右ノ理由ナルヲ以テ公債ヲ引當ニ發行シタル紙  
幣ノ高平均法ニテ定リタル通貨ノ高ニ上ラザル

其紙幣ハ正金引換ノ為ノ發行部ニ歸リ來ル  
ト無ク國內驚慌起リテ非常ニ通貨ノ流出スルハ  
ヲ除クノ外ハ地金ヲ表セサル紙幣發行高ト平均  
法ニテ定マリタル實地需要高トノ間ニ生スル差  
額ノ金ハ常ニ發行人ノ金櫃中ニ残留スヘシトノ  
斷按ヲ下ストテ得ルナリ  
右ノ道理ニ基キテ條例ヲ制定シタルモノナレ  
ハ過去ノ實見ニ注目シ現今銀行ノ紙幣發行高ノ  
減少スベキ最少點ヲ確定スルハ條例ノ制定ニ干  
與セシ人ノ責任トナリタリ  
千八百三十九年十二月銀行紙幣發行高千五百五  
十三万二千磅ニ減少セシハ其發行銀行ノ精撰委  
員ノ報告書ヲ以テ明ラカナリ然レモ此報告書ハ

銀行振出手形凡八十万磅ヲ算入セリ而シテ條例  
判定ニ根據セシ他ノ報告各ニハ振出手形ノ算入  
セズ是ヲ以テ手形ノ金高ヲ差引キハ千八百三十  
九年十二月ノ紙幣流通高八千四百七十三万二千  
磅ナルベシ然レ氏當時若シ銀行ノ事務ノ區別銀  
部發行部ニセハ此高ハ銀行部ニテ預入ノ要求ニ應  
ゼンガ為ノ宜シク櫃中ニ貯藏スベキ金高ヲ合算  
セサルベカラズ我輩ノ聞ク所ヲ以テスルニ此高  
ハ近頃二百万磅マダ減少シタルアリ故ニ右二  
口ヲ合スルハ左ノ如シ

一千四百七十三万二千磅  
千八百三十九年十二月  
銀行紙幣發行高  
銀行事務準備紙幣高  
一二百万磅

右二口合計千六百七十三万二千磅ハ千八百三十  
九年十二月發行部ノ手ヲ離レテ外出セル紙幣ノ  
総額ナリ  
此等ノ事實ヨリシテ條例ノ制定者ハ其事務ノ區  
別發行部スルキハ最少ノ減高千六百七十三万二  
千磅ニシテ假令ニ外國為換ノ勢力強キナリト  
發行部ヨリ出ス所ノ紙幣ハ此ヨリ減スベカラス  
今條例ニ依テ地金ノ準備セザル紙幣千四百磅  
ヲ發行スルヲ許可セラルハニ於テハ地金ヲ準備  
滿トシテ發行スベキ紙幣ノ高ハ二百七十三万二  
千磅ナルベシ平時ニ地金ノ準備二百七十三万二  
千磅以下ニ減セザルニ通貨交換ノ利シテハ安  
全ナルベシト決定セシナリ

右ノ見込ノ正シノレテ謬リナキトハ經驗上  
明ラカニ理論ハ實際ニ劣ラテ其効ヲ證シ紙幣交  
換ノ安全ナルトハ全ク條例ヲ制定スル者ノ先見  
ニ副キテノ條例ノ制定以來今日ニ至ル迄銀行ノ  
発行部ニ貯藏スル地金ノ減却決シテ八百萬磅ニ  
下ルルヲ無キヲ以テ知ルベシ  
上文ノ味スルキハ発行部ニテ貯藏スル公債ノ定  
額ハ銀行ノ資本又ハ政府ニテ借入タル金高ニ関涉  
ナリト思フノ見ハ自カラ其謬誤ナルヲ知ルニ足ル  
紙幣ノ発行ニヨリテ銀行ノ得ル利益ハ余カ講義中  
ニ於テハ年ニ九十萬磅ナリト説キタル氏此高ヨリ  
ハ稍高ナルベシ且前條ニ云シ如ク政府ノ利得ハ

銀行ニ倍セリ銀行ノ利得ハ千五百萬磅ノ年利三厘  
ノ利息中ヨリ紙幣製造發行交換等ノ諸入費ヲ差引  
キタル残リナリ  
銀行ハ何時ニテモ紙幣ヲ持參スルハ正金ノ以テ  
交換セサルヲ得サルノ事ニ付テ屢疑ヒテ起レ千五  
百萬磅ノ正金ノ備ヘスレテ之ヲ公債ニ使用スルハ  
如何レテ其交換ヲ為シ得ルヤト問フモノアリ之  
ニ答フルハ難キト無レ千五百萬磅ノ公債ヲ除クノ  
外流通紙幣ハ盡ク歸ル来ルトモ銀行ノ準備ニ引  
替フ為スニ足ルベシ然レモ發行高千五百萬磅迄  
減少スルニ至ラザル以前ニ銀行ハ千五百萬磅ノ公  
債ヲ正金ニ轉換スルヲ務ムベシ而シテ其内四百  
萬磅ノ公債ハ何時ニテモ差支ナク賣却スルヲ得



レ残り千百方磅ハ政府ニ償付ケ置キタレハ安用  
ノ時ハ租稅院長ハコレヲ三米ノ公債直レ銀行ノ  
頭取并ニ本社ノ名前トナスヲ難カラサルベシ頭取  
ハ之ヲ賣リ其代價トシテ紙幣ヲ受取ルベシ而シテ  
一旦受入レタルモノハ再ヒ発行スルニ及ハサルヲ  
以テ受入高丈ハ全ク減却スルヲ得ルナリ斯ル如ク  
シテ公債ヲ賣リ尽シ紙幣ヲ交換シ尽スルハ銀行ノ  
発行部ノ事務ハ全ク結了シタリトス然レ而シテ他  
ノ銀行事務ニ差支ヲ起サス一時令ノ資本ヲ失フ  
事無クシテ紙幣ニ関スル責任ヲ解キタルハ言フヲ  
待タサルナリ(シヤンド氏曰ク論先分ノ償ヲ以テ公  
債ヲ賣拂タルモノトシテ立論セシナリ)  
千八百四十二年ノ條例ノ大眼目トスル所ハ如何ナ

ル事作起ルナリ銀行紙幣ヲ何時ニテモ差  
支ナク正金ト引替ルナリ得セシムルニテ而シテ  
此目的ハ全ク遂ケタリ且ツ頭取ハ聊カモ其事ニ干  
與スルヲ能ハス唯日ニ金貨ト銀行紙幣ヲ取扱フ場  
所ニ於テ其事務ヲ擔當スルノ人ヲ監督スルナリ  
ノミ  
○條例ノ目的トスル所ハ蓋シ取締役ノ唯株主  
ノ利益トナル事ニ注意シ紙幣ノ準備トナスニ  
充分ナルベシト思フ類ヨリハ一層多ク金貨ヲ國內  
ニ保持スルニアリ○銀行紙幣ノ品位價格ヲ保持ス  
ルガ為メ徒ラニ巨額ノ金ヲ貯蓄シテ更ラニ利息ヲ  
生メシメザルハ弊害ナリトスルモノアリ假令一  
方ヨリ解ラ下ス片ハ弊害アルニモセテ若シ之ヲ銀  
行紙幣トリバレートハ何時如何ナル事情アリト

常ニ同價格ナルヨリシテ社会ノ蒙ムル利益ノ廣  
大ナルニ比較スルキハ其弊害ナルハ誠ニ屢々タル  
モノナリ  
余カ見ル所ヲ以テスルニ右ノ點ニ於テハ千八百四  
十四年ノ條例ハ全ク其功ヲ遂ケタリ  
其他当國ニ流通スル銀行紙幣ハ英倫蘇格蘭阿爾蘭  
中ノ合本銀行私立銀行等ニテ発行セル紙幣ナリ此  
等ノ発行紙幣ノ交換ヲ保安セン為メ千八百四十五  
年ニソルロバルト、ピール氏ノ採用シタリシ方法ハ  
英倫銀行トハ異ナル道理ニ根據セリ○千八百四十  
五年以後ハ各銀行ニテ発行スル紙幣ノ額ニ定限ヲ  
立テ且ツ以後ハ新タニ発行銀行ヲ創立スルヲ得セ  
シメテ而シテ同氏ハ之ヲ以テ目的ヲ遂クルニ充分

ナリ考定セラレタリ○英倫銀行ノ紙幣ヲ他ノ銀  
行紙幣ニ換フルノ規則ヲ立テタリシカ是レ蓋レノ  
ルロバルト、ピール氏ノ條例施行ノ期限内ニ於テ郡  
邑銀行ニテ発行スル紙幣ヲ漸ク廢棄スル方向ニ誘  
導シ條例ノ期ニ至レハ新ニ規則ヲ立テ國中ノ銀行  
ニテ発行スル紙幣ヲ消尽セシムルノ目的ナリ  
千八百四十四年並ニ千八百  
四十五年ノ條例發行ノ時

銀行ニテ発行スル紙幣ノ  
定限  
蘇格蘭同  
阿爾蘭同  
三百〇六万三千磅  
六百三十五万四千四百九十四磅

イングランド、ウェールズ、中ノ郡邑

千八百一十。万七千四百三十一。磅

千六百三十六万。百四十。磅

千八百六十六年六月三十日

英倫銀行ノ除ノ外

英國中ノ銀行ノ除

行ノ許可セクレン

紙幣高

現在流通高

千四百六十八万七千五百四十。磅

未ニ掲ケタル金額ハ交換ノ引当無クシテ発行セル

モノナリ而シテ紙幣印税ノ外ハ之ヨリ政府ニ利益

ヲ得ルヲ無シ其印税高ハ年凡五万五千磅ナリ○郡

邑銀行紙幣ハ次シテ法<sup>法</sup>額<sup>額</sup>タルニ非スト虽凡一般ニ

其地方ニ流通スル銀行紙幣ハ實際ニ其地ノ通常商

人ニ取リテハ之ヲ拒ンテ受取ラサルヲ能ハザルナ

ノ

茲ニ又疑ヒテ起スモノアリテ曰ノ正金仕掛ノ準備

無クシテ茲ノ如キ巨額ノ紙幣発行ヲ諸銀行ニ許可

スルヲ以テ便宜ナリト考定スルキハ何故ニ英倫銀

行ヲモ其規則ヲ遵奉スル会社ノ内ニ加ヘザルヤト

然レモ眞実ニ之ヲ論スルヤハ銀行紙幣トシバレ

ン金トハ皆政府ノ監督ヲ以テ同シ主權ノ手ヨリ發

行スベキモノナリ若シ英倫銀行ハ此事ニ付テ現今

ノ如ク永ク政府ノ代理トナリ而シテ茲ノ如ク方法

ハ大ニ當國ノ經濟ニ取ツテ至便ナレトノリテ明

瞭ニ示スヲ得ハ國內ニ流通スル銀行紙幣ノ一

様ニ歸テ簡明知易カラシメ且位價充分ナラシム

ハ議院ノ為メニ謀ルニ正且ツ智ナリト謂フべシ

当國ノ殷富ト商業ノ廣大トニ關係セズシテは  
通貨ノ定限ヲ立ツルハ完然ノ法ニ非ズト云ノ論ハ  
右地方ニ於テ新聞記者ハ之ヲ反復討論セリ  
相々新聞ニ云ノ当國ノ輸出入高五十万磅ノ時  
ノ交易媒姪（即チ貨幣ヲ以テ）ニ億万磅ノ交易媒姪ノ職ヲ  
務メシモノ一ヲ望ムハ豈ニ非望ナラズヤト  
日ニ大ニナル商買ノ取引ヲ為スニハ蓋シ取引者ト  
キ時ヨリハ多分ノ貨幣ヲ要スベシトノ説ヲ拒ムモ  
ノナシ○余ノ此ニ蓋シト云フハ必ズシテ多分ノ  
貨幣ヲ要セザルヲ以テナリ  
開明諸國中当國ハ殊ニ二三十年間銀行ノ便益甚ノ  
増シ正金銀又ハ銀行紙幣ノ代理ヲ務ムルヲ幾多ナ  
ルカ是レ明言スル能ハザル程ナリ維令ニ千八百六

十五年（即チ）於テ千八百四十五年ヨリハ多分ノ貨幣ヲ  
要スルモ界ニ金ノアル間ハ当國ニ用ウル通貨ノ  
即チ法貨ナル銀行紙幣并ニ金貨高ニ定限有ルヲ  
シ如何トナレハ我輩ハ唯交換ノ為メ吾ガ貨物ヲ予  
フレバ時ニ速速アリト雖モ幾多ニテモ我カ望ム所  
ノ金ヲ得ベケレバナリ○政府又ハ英倫銀行ニ正  
金ハ供給ニ付テ常テ干與セシマリア余ガ知ル所  
ヲ以テスルニ世界万国中正金ハ決シテ政府ニテ供  
給スルモノニアラズ常ニ人民ノ正金ヲ需要スルニ  
ノ自カラ之ヲ供給セリ（本國ノ幣ハ政府ハ自カ  
ラ發行シテ人民ニ與ル）又  
政府造ル非ス推テ人民ヨリ用ニ要スレバ又  
政府造ル非ス推テ人民ヨリ用ニ要スレバ又  
人民ノ造幣所ニ運送シタル地金ヲ復幣ニ鑄造シ

其品位ト量目ヲ明示スルヲニシテ人民ノ金貨ヲ  
得ルニ限リアレバ政府ノ金貨ヲ鑄造スルニ定  
限無しト同シク取締後ハ法令ニ千五百万磅公債  
ノ外ハ金貨ヲ貯蔵セザルヲ得ズト雖人民ノ銀行  
ニ至リ受取ルニキ紙幣ハ定額無し是ヲ以テ當國ノ  
法ハ千五百万磅外ノ發行紙幣ハ準備ノ正金ヲ以テ表  
ス可シト云ノ外次シテ通貨トシテ用ウニキ金貨并  
ニ銀行紙幣ニ定限ヲ立ルトキハ其事實確然ナリ  
合衆五國ノ通貨ニ関スル現今ノ法ハ右ニ述ビタル  
ガ如シ而シテ英倫銀行ニテ發行スル紙幣ハ正  
金ヲ準備セシムル目的ヨリハ別ニ議院ニテ現今ノ  
英倫銀行紙幣整理法ニ干與スベシトハ余ガ信ヲ置  
ク能ハズ所ナリ尽ク正金ヲ準備トナスハ固ヨリ

要用ナリト思ハズ又政府ニテ斯ノ如キ改革ヲ行ハ  
ントモ思ハザルナリ  
以上通貨并ニ英倫銀行紙幣發行ノ疑題ヲ擧列説明  
シタルハ是ヨリ當銀行ノ他ノ事業ニ及フベシ其第  
二ノ疑題ハ公債取扱ナリ然レバ此部分ニ関シテハ  
余ガ講義ト増補ニ於テ充分ニ言尽シ且ツ千八百五  
十年年講義ヲ著ハセシ以來改革アリシモノハ注脚  
ヲ加ヘタルバ後々議論ヲ費ヤスニ及バザルベシ第  
三ハ銀行事務取扱ナリ此點ハ甚メ緊要ノ論題ニシ  
テ當國ノ債幣通商ト大関係ヲ有スルモノナリ然レ  
テ千八百四十四年ノ條例ハ毎週唯資産負債ノ表ヲ  
公告セシムルノ外ハ次シテ銀行事務取扱向キニ干  
與スルナク無ク而シテ其公告ハ他ノ銀行ニ及ボズ

要セス蓋シ其公告ハ英倫銀行ノ官全預ノ銀行ヲ  
間ハ世上ニテ常ニ其措置ノ手取ヲ知ルヲ以テ考然  
稱スベシ六百四十四年ソル、ロバルト、ビロ、氏謂  
ヘル、ア、リ、曰、銀行ハ全ノ紙幣ニ関スル責任ヲキ  
ヲ以テ其通常銀行事務ニ付テハ政府ト國人トノ信  
任ヲ保テ以テ其事務ヲ処分スル以上ハ立法官ノ議  
定ニテ羈束ヲ加フル、無ク全ク不羈自由ヲシハ  
ベシト

千八百四十四年以來英倫銀行ノ事務ハ全ク取締没  
ノ管理スル所トナルノ

千七百五十五万三千磅  
貳千百万磅

資本積立金  
千八百六十五年公私預金  
平均概算高

右ノ總額ニ千八百五十五万三千磅ヲ以テ營業ス○  
預金銀行主ノ明白ニ負擔セシ義務ハ預金中若干ノ  
高ク残レ之ヲ現場入用ニ供スル、若シ此高ク保  
持スル、全額三分ノ一ニ下ラズ其餘ハ通例確實ト  
ル銀行抵当ト稱スルモノ(即チ為換手形及ヒ堅良ト  
ル抵当ヲ取リタル短期ノ貸付公債等)ニ使用スルヤ  
ハ銀行主ハ危急切迫ノ憂ヲカルベシ○銀行ノ資本  
ヲ使用スルニ付テハ其内一分ニ準備トテスニ及バ  
ズ、尽ク之ヲ利付ノ公債ニ使用スルモノ自由ナリ勿論  
其公債ハ疑ヒテ容レザル精確ノモノタルベシ然レ  
モ必ク之ヲ預金拂戻ノ用意ニ備フンモノ如ク  
速カニ金債ニ換フベキモノニ非ズレテ足レノ額  
ヲ資本ヲ蒐集スル所以ノ一大目的ハ金銀ノ保護ニ

依テ便益ヲ得ル人ト預ケ金ヲ為ス人トニ對シ充分ナル保証ヲ為サシメンガ為メナリ他ノ一方利益ヲ得ル一方ヨリ言フキハ巨額ノ資本ハ好ム可キハニアラズ如何トナレハ利益金ハ多数ノ株主ニ割賦セザルベカラザレハナリ後令ハ銀行ニテ得ル所ノ利益百四十万磅ナルキ若シ之ヲ千四百万磅ノ株主ニ割賦セバ一割ノ利息ニ當ルベシ然レ氏千四百万磅ノ資本減却シテ四百万磅ニ降リテ尚オ前ト同シ利益即チ百四十万磅ヲ得ルトセバ曩キニ百磅ノ資本ヲ四朱ニ使用シテ得ル利息四十万磅ヲ差引キ残ノ百万磅アリ之ヲ四百万磅ノ株主ニ割賦スルキハ凡ノ二割五分ノ利息ニ當ルベシ然リト雖此之カ為メヨ右ノ變革ヲ行ナフハ銀行ノ資本ヲ減少スル

一) 株主ニ取ツテ便益ナリトスベカラズ英倫銀行ハ世界ニ成立スル銀行中ニテ最大ノ資本ヲ有スルモノトシテ其聲名世間ニ知ラレタリ何國ノ政府ニテモ諸類ノ預物ニ関シ常テ其確實安全ヲ疑フモノアラズ其株式ハ公私ノ金並ヒニ委託金等ニ暹度氏曰他人ノ金ヲ預リ安全ナルモノニ使用シ其利息ヲ委託セシ人又ハ名差シ人ハ予フルモノヲ委託金ト稱スヲ使用スルニ最好ノモノトナリ若シ一旦大ニ其資本ヲ減テスルモ從前ト一般ノ聲名ヲ保ツベキ力是レ甚ダ信スベカラサルナリ且株主モ甚ダ憂苦スルニアラズ而シテ何ノ此ノ如キ變革ヲ行フベキノ理アラシヤ

然リト雖ハ銀行ノ資本ヲ使用スルハ商人仲間ノ用  
グナリト考定スルハ誤リナリノ地方ヲ進捗セシム  
為メ諸会社ニ貸付テ或ハ鐵道ノ拵成金ノ為メニ  
出金スル等皆金銀市場ヲ寬和シ願請スルモノヲ減  
少シ而シテ餘分ノ資本ヲ他ノ通商用ニ供スルヲ得  
ルナリ  
銀行ハ常ニ其預人正當ノ要求ニ應ズル用意アリ而  
シテ預ケ人ハ何時ニテモ預ケ金ヲ取戻スヲ得銀行  
ハ其株主ニ分配スベキ資本ノ内一フアレンダセ失  
ハスレテ數月間ニ鎖店完結スルヲ得ベシ  
右ニ付又疑問ヲ起スモノアルベシ曰ク若シ常ニ其  
事務ヲ安全ニシテ簡易ニ取扱ヲ得バ何シテ千八百  
四年以來銀行ニテ其需要ニ應ズル資金ノ外ニ又屢

他ノ方策ヲ求ムルガ如キト起ラシヤト余レ將ニ之  
ヲ辨明シテ此疑問ニ答ヘシ  
概メ之ヲ論スレハ如此ト起ルハ畢竟世人ノ銀行  
ニテ預金銀行通常ノ事務ニ及スル營業ヲ履行セシ  
トテ企望スルヲ以テナリ其故ヲ細論スレバ銀行ハ  
是迄永年同平常ノ得意先ノミナラズ凡テ世人ノ望  
ニ應シ何時ニテモ手形ノ割引ヲ為シ又ハ一時ノ貸  
金ヲ為スモノナリト世人ニ企望セラレタリ其極ヤ  
衆人ヲレテ一時急迫ノ起ルハ銀行ノ貸付ヲ為ス  
高ニ定限ナクシテ唯割引ヲ騰貴シテ其需用ヲ制ス  
ルノミナリヲ以テ銀行巨額ノ資本ハ非常ノ要求ニ  
應ズルニ足レト臆想セシムルニ至レノ是ヨリレ  
テ英倫銀行ノ利息ノ高低スルノ權ヲ有スルモノナ



リト云正理ニ背キタル念ヲ懷カレムルニ至ル〇何  
時ニテ元割引ヲ為ナンガ為メ非常ノ要求起ルヤハ  
英倫銀行ハ他ノ銀行主金主ゴヨリハ稍廉下ハ割ヲ  
以テ割引ヲ為スハ殆ト一般ノ情實ナリ  
若シ其時ニ際シ銀行ニテ利息ノ割合ヲ騰貴セザル  
ハ是レ市場ヨリハ廉下ナル利息ヲ以テ貸付ルナリ  
故ニ市場ノ金利騰貴スル間ハ銀行ニ資金ノ有ル限  
リ必ズ之ヲ借インテ願フモノ多カレヘシ銀行ニ  
テ市場ノ割合ヨリ依利ニ貸出ヌ間ハ國內ノ借人ヲ  
銀行ニ輻輳セシムルヤ必セリ然レモ茲ニ言フ者ア  
リ曰ク若シ茲ノ如キ非常ノ時ニ際シテ用ヲ為サズ  
ンバ此巨額ノ資本ハ將タ何處ニ用弁ントスルヤト  
銀行ノ資本ノ用ヲ為スハ余既ニ述ベタリ然レモ此

資本ヲ以テ一時ノ貸賤切迫ヲ救フニ用弁シムルハ  
猶ホ其可ヲ知ルモ之ヲ以テ唯非常ノ事変ニノミ應  
スレモノトナスハ余カ論駁スル所ナリ宜シク資本  
ノ一部ヲ非常ノ事変ニ備ヘ置クカ或ハ正當ナルモ  
ノニ使用シタルノ一部ヲ機ニ應シ用意金ニ直シ置  
クベシ〇為換手形割引ノ事務ヲ取扱ハンニハ其手  
形面ニ姓名ヲ記載スル人ノ信用品行ヲ熟知スルコ  
至要ナリ然レモ平常其姓名ノ銀行ニ知レタル者ニ  
非ラズンハ焉ソ其人ヲ熟知スルヲ得シヤ此類ノ事  
務ヲ濫滯ナク遂行センテ欲セハ順序ヲ立テ間断  
ナク且ツ成可ク丈ケ一様ニ取扱フヘシ而シテ如此  
ナサント欲セハ經驗アル人常ニ之ニ從事スベシ既  
ニ前文ニ述ベシ如ク偏ニ急促ニ迫リ或ハ時間ヲ定

メスシテ之ヲ措辨スレキハ必ス事ヲ壞レベシ○貨  
賤切迫遇ニ此類ニ使用スル資本割引等ニ用ウル  
金ヲ云既ニ不用ニ属シ再ニ從前ノ使用ニ返着ス  
キモノトナラハ是レ銀行ニハ損失ノ事務ナリ且ツ  
巨額ノ金ハ銀行ニテ市場ノ相場ニ因リ常ニ其割合  
ヲ低昂スルニ非スバ決シテ間斷ナク常ニ為換手  
形割引ニ用ウルヲ能ハザルモノナリ(他ノ金主各  
自ノ資本ヲ為換割引ニ使用シテ益アリト思フ最高  
点ニ其相場ヲ騰貴セシムルカ或ハ其最低点ニ下落  
セシムルヲ云フ)○茲ノ如クナサントスルニハ必ズ  
日々其相場ヲ衰セサルヘカラズ而シテ其相場ヲ衰  
スルハ蓋シ世人ノ一般ニ許ス所ニアラザル可シ  
衆人ノ言ニ曰ク常ニ相場ノ變動スルハ喜マシキ事

ニアラズ若シ銀行ニテ貯蓄金ヲ増スニ於テ如此火  
急ニセズンバ大ニ其相場ノ變動ヲ避クルヲ得  
ベシト概シテ之ヲ言ヘバ衆人ハ銀行ニテ割引ノ相  
場ヲ騰貴スルキニ於テハ其低下セシキ程ハ深ク谷  
メサルナリ衆人ハ曰ク銀行ニテ資本ヲ積聚スル  
之ヲ運用スルノ時機ハ忽チ復タ来ルベシト然レ  
余ハ茲ノ如キ措置ノ能ク其目的ニ應セントテ信ス  
ル能ハス且ツ善良ナル銀行抵當ニ使用スルヲ得ル  
ノ時ハ早晚至ルベシトノ想像ヲ以テ其預金ヲ不用  
ニ委スレハ銀行事務ノ道理ニ背戾スルモノト云フ  
ベシ



大  
歳  
百

銀行ノ割引相場静定シテ變セサルハ時トシテ金銀  
市場ノ事業ニ悪影響ヲ起ス丁宛カモ相場ニ非常ノ  
變動ヲ起ス時ト殊ナルヲ無シ  
他ノ方法ヲ説クモノアリ曰ク非常ノ事變ニ應セン  
カ為メ平生若干ノ金額ヲ取除ケ置危急ノ際ニ臨ミ  
之ヲ使用スルニアリト其方法ハ通常ノ預金九三分  
ノ一ヲ準備トナスノ外ニ猶ホ驚慌ノ時ニ應シ之ヲ  
防禦スヘキ餘分ノ高アルベシ而シテ其勘定ヲ公告  
スル中ハ勿論此ノ非常預備ハ銀行ノ手元ニアルヲ  
ヲ世人ノ窺ヒ知ルベキヲ以テ三分一ノ通常預備ハ  
大ヒニ減少ス氏利息ノ割合ヲ騰貴スルノ必要  
トアルベカラズト然レ氏何人が此附加ノ預備ヲ持  
出シ使用スルノ期ヲ決定スヘキ乎且ツ銀行ニテ餘

リ割合ヲ低下シ(世人ノ非常ニ正金ヲ要望スルニ依  
テ)テ引續キ割引ヲ為セシ中ニ當ツテハ何時ヨリ市  
場ト同様ノ利息ヲ以テ貸与スベキヲ其機ヲ決定辨  
別スルノ試金石アリヤ此需要割引ヲ請ハ數日ニ亘  
リ數週ニ連ナリ遙カニ供給預ケ金ヲニ越ハテ多キ  
ヲアルベシ而ルニ此説ニ從ヘバ銀行ニテハ此需要  
ノ多キ用意金ヲ貸与スルニ當テ尚ホ頑然其割合ヲ  
騰貴セザルナリ故ニ如何ナル事情アリモ市場ニリ  
ハ其相場ヲ低下シテ貸金ヲ續ケルハ銀行ノ為メニ  
安全ナル處置ト云フベカラズ  
諸銀行諸商人カ既ニ各自ノ手元金ヲ拂ヒ盡シ尚ホ  
其他ノ不足ニ供セシタメ銀行ニ依頼スル中ハ銀行  
ハ其切迫ヲ救フノ勢カヲ有スルモノナリト世人ヲ

シテ思考セシムルノ地ヲ為スニ於テハ假令如何ナ  
ル方法ヲ以テ資本ノ使用ヲ變換スモ其弊害ハ決シ  
テ除却セザルベシ  
諸銀行諸商人ハ即時ノ仕拂ニ供スル手元金ナクモ  
某ノ日ニ於テ仕拂フヘシト記載スル約束書アレバ  
即時拂ニ供スル金ニ變換スルヲ得ヘキモノナリト  
誤認スベカラズ且ツ英倫銀行ニテ平常ノ措辦方ニ  
從ヒ預金ノ準備トシテ貯ヘ置ク若干ノ手元金ノ外  
ハ世人ノ需メニ應スベキ術無シ其準備竭クル片ハ  
借人ハ手ヲ束ネテ平常ノ利瀆ヨリ再ヒ供給ノ流入  
スルヲ疾ツノ外他ニ良策ナキモノナルヲ以上諸  
行諸人ハ了解マベキナリ  
不幸ニシテ英倫銀行ニ関スル龍動ノ衆論ハ之ト同

シカラス前ニモ言シ如ク銀行ニ望ムニ不可行ノ事  
ヲ以テセリ(即ハチ需要多クシテ其供給竭クルハ  
他ヨリ用意金ヲ尋ネ出サシムル)而シテ事変起ル  
ハ銀行ヲシテ不適當ナル方策ヲ用キテ不條理ナ  
ル需要ニ應セシメンコトヲ望メリ是迄其事ノ起ル已  
ニ三回ニ及ベリ若シ世人が各自ノ業ヲ営ムニ方フ  
テ安全ヲ主トシ萬事謹心ナラバ銀行ヲシテ茲ノ如  
クナサシムルニ及ハサルハ勿論ノコトナリ然リ  
モ余ハ決シテ法制ヲ設ケテ以テ諸商人ヲシテ謹慎  
ナラシメンコトヲ望ムモノニ非ズ余ハ世人ノ資力ニ  
勝ヘサル買賣ヲ張り若シクハ相場事ヲ為スヲ防ガ  
ン為メ政府ニテ之ニ干与スルコトアレバ悲シマサル  
ヲ得ズ各人ヲシテ隨意ニ其金ヲ使用セシムベシ各

人ヲシテ隨意ニ其資本ヲ使用セシムベシ隨意ノ利  
息ヲ収メ隨意ノ抵當ヲ以テ金ヲ借ラシムベシ但英  
倫銀行ハ明了ニ定メタル限度ノ外ハ用意金ヲ供給  
スルコト能ハズ其限度ハ預ケ人ヨリ銀行ノ手元ニ委  
ネ置ク金高ニ止マルコトヲ諸商人ニ了知セシムハ足  
ラン

余ガ親戚シボレトタムソン氏嘗テ余ニ謂テ曰ク  
若シ質入ト為換手形トヲ辨別スルヲ得ハ銀行主ノ  
事務程易キ商業ハアラサルナリト此言ヤ虚言ニ似  
タレモ余ハ深ク其名言ナルヲ信ス銀行事務ニ熟ス  
ル人ハ固ヨリ質入ト為換手形トヲ辨別スベキ事ナ  
リト思フ人有ルベケレモ此區別ハ甚ク混淆シヤス  
シ通常ニ為換手形ト称スルモノ、根原ニ溯リ能ク

之ヲ討議スル中ハ多分ハ必ラス質入ト殊ナルヲナ  
キヲ発見スベシ右ノ為換手形ハ仕拂ノ約定ナリ故  
ニ其書付タルヤ地面ヲ質入スルモノト同シクシテ  
其手形ノ期日来ルトモ直チニ其仕拂ニ應スヘキ資  
産アツテ以テ之カ預備ヲナスコト無シ然ルニ平常ノ  
為換手形ハ之ト殊ナリ預期ノ引當アリテ其ノ資本  
運度氏曰此蓋シ即チ諸商流通資本ヲ指シノ授受ヲ根據トシ  
テ之ヲ詳説セハ其期日迄ニハ其資本ハ其人ノ  
渡リ代金ヲ受取ルベキヲ以テ為換手形ノ仕拂ヲ為  
スヲ得ベシトスルナリ其資本ハ元ヨリ種々ナルベ  
シ通常ノ銀行手形モ亦其預期限アリ其手形ハ即チ  
チ資本ノ授受ニシテ其ノ時日ニハ其ノ用意ヲ以テ  
之ニ應スルモノナリ然ルニ余ノ質入ト称スル為換

手形ハ其預期限無シ例之ヘハ

千八百六十六年一月一日

日附後六ヶ月ヲ経ハ兼テ約定ノ通り御受取相成  
タル物ノ代價五千磅ヲ何某ノ名差人へ御拂ヒ可  
被下候

鐵道會社宛

鐵道請負人ノ振出しタル右ノ手形ハ千八百六十六  
年七月一日ガ期限ナリ鐵道會社ハ拂戻金ヲ以テ金  
ヲ得ルニ非ズンバ右ノ手形ヲ仕拂フヘキ金ヲ手元  
ニナカルベシ

千八百六十六年一月一日

日附後六ヶ月ヲ経ハ船ノ代價三千五百磅ヲ何某  
ノ名差人へ御拂可被下候

大義省

船主宛

右ノ手形引受人即ハテ船主ハ其船ヲ質入シテ此手形ノ任拂ニ供セントスルナリ

千八百六十六年一月一日

日附後六ヶ月ヲ経ハ兼テ約定ノ通り御受取相成タル物ノ代價二千磅ヲ何某ノ名差人へ御拂可被下候

家屋建築主宛

右二千磅ノ手形ハ当時建築中ノ家屋等ヲ引当ニ保峻社ヨリ借金シ之ヲ拂ハントスルナリ

千八百六十六年一月一日

日附後三ヶ月ヲ経ハ流船某号積送ノ生綿代價二千磅ヲ何某ノ名差人へ御拂可被下候

ト、子

仲買人宛

右生綿ハ米国ヨリ積送ノ途中ニアリ到着ノ上ハ手

形ノ引受人此生綿ヲ受ケ取ルナリ然ル片ハ船槽證

書外船ノ来テ碇泊スル處ヲ船槽ト云フ其四一會社アリテ積送ノ船荷ヲ取扱ヒ荷物ノ預リ證ヲ出

リナヲ質入シテ銀行主ヨリ金ヲ借ルヲ得ベシ

右四箇ハ質入ト殊ナルト無シ然レモ其手形ハ之ヲ

為換手形ト称ス

正用意金ヲ備ヘ置クハ最モ肝要ナル事ニシテ其金

ヨリ利息ヲ生スルト船ハザルハ勿論ナリ然ルニ世

人ハ皆之ヨリ利益ヲ生セシメンヲ務メ兼テ先

金ノ用ヲ為サシメント望メリ之ニ答フルハ唯行

ハサルベシノ一言アルノニ試ミニ如何ナル形状如

大 養 省

何ナル性質タリト各其好ム所ニ隨テ其用意金ヲ資  
本ニ變セシメヨ其資本ハ其實價ニ充ツベクシテ過  
大ノ資本トナルヲ能ハサルハ必セリ然ルニ世人ハ  
此怪事ヲ為サントテ務メ竟ニ信用ニ關スル諸事ニ  
大ヒナル混雜ヲ引起サシメタリ  
英倫銀行ハ久シク此怪事ノ助ケヲ為サントテ企望  
セリ而シテ時トシテハ銀行ニ強迫シテ之ヲ為サン  
メタルヲ以テ去二十年間ハ貨賤ノ驚慌起リシニ雖  
其勢熾ヲ助ケテ一層ノ艱狀ヲ現出セシメタリ  
千八百六十六年九月廿二日於テ「イコノミスト」新聞  
ハ余々是迄發論セシ中テ當國ノ貨賤ト銀行トニ取  
テ最モ有害ナリト見做スヘキノ論ヲ發セリ其言ニ  
曰ク諸銀行主ノ自己ノ資産既ニ空耗ニ屬シテ英倫

銀行ニ依頼スル所ハ之ニ應セン為メ常ニ貨幣ヲ備  
フルトハ英倫銀行本分ノ職務ナリト○銀行事務ニ  
關係スルモノハ如此論說ヲ廢去スルニ非スンハ龍  
動ノ銀行事務ノ完全無欠ナル道理ヲ履行セント欲  
スルト太ク難カルベシ然レ氏余以為ク龍動ノ銀行  
主ハ未タ「イコノミスト」新聞ノ論說ノ如ク銀行主ハ  
危急ノ一一起レバ英倫銀行ニ依頼シテ救ヲ乞フ以テ  
公道正理トスルガ如キ思想ヲ懷カサルナリ  
余以為ク英倫銀行ノ義務ハ最モ便益ナル抵當ヲ以  
テ預金三分ノ一ヲ用意金トシテ手元ニ殘シテ保守  
シ貨幣市場ニ切迫ノ事起ル所ハ其事情如何ニ拘  
ラズ其殘金ノ流出ニ付テハ其措置スル所他ノ銀行  
ト同シカラシムルニアリ張レ氏世ノ論スル所英倫



銀行ハ唯之ノミナラス其他ノ事ヲモ為スノ注意アルアルベキナリト云ヒ「イコ」ミスト新聞モ亦此説ニ左祖セシハ豈奇怪ナラスヤ○銀行ニテ事變ニ應セン為メニ貨幣ヲ殘シ置クフ實際行フベキト雖モ之ヲ為スハ尚ホ不知ト言ハザルヲ得ス況ンヤ實際ニ上決シテ行フベカラザルニ於テヤ而シテ銀行ニ於テ商業上困難ノ時ニ際シ手ヲ盡シカヲ極メテ之ヲ救ハント欲スルノ好意ヨリシテ遂ニ世人ヲ上ニ説ク如キ思想ヲ懷カシムルニ至ル時ハ唯之ヲ一嘆ニ附スルノ銀行事務ノ扱方ヲシテ王國內ノ取扱ノ善キ他ノ諸銀行ニ近似セシメバ銀行ノ為メニモ善ク又夕廣ク社會ニ取ツテモ益有可シ千八百六十六年五月十一日ニ於テ銀行ハ先年數度

ノ危急アリシ時ト同シ方法ヲ以テ處置セント欲シ貸附金ノ依頼ヲ乞フモノアレバ務メテ之ヲ許諾シカリシガ其結局ハ數時間經ザルニ取締役ノ豫想セシヨリハ準備ヲ低點ニ減シタリ固ヨリ銀行ノ資本ニハ全ク著手セザレハ負債即ハチ銀行ノ負債ヲ償却スルニ充分ノ方途アルハ衆人ノ信スル處ナリ唯茲ニ疑ヒノ起ルハ如何シテ火急ノ要望ニ應スルニアリ抵當ヲ賣却シテ用意金ヲ得ベキカ或ヒハ利息ノ割金ヲ騰貴シテ切迫ノ甚シキニ至ラサル者ヲメ要望ヲ絶タシメ且ツ高利ヲ付スルニ苦シク切迫少シク寛和スル片ハ速ヤカニ之ヲ償還スルノ以テ更ニ紙貨本ヲ他國ヨリ當國ニ吸集スヘキ乎ニアリ貨賤ノ切迫ヲ寛和シシガ為メニ人民ヨリ銀行ヲシ

テ紙幣發行準備ノ一部ヲ用キシメシトテ請願シ政  
府ニテ之ヲ許可スルハ固ヨリ銀行ハ要用ノ起ル  
ルハ法制外ノ借權政府ヨリ借ルノ權アリ以テ引續キ貸  
附ヲ為スル決シテ懼ル、一無カルベシ然リト雖モ  
政府及ヒ銀行ニ於テ茲ノ如キ切迫ニ至ラザル前之  
ヲ防禦スルコトヲ得シメハ當國ノ利益ハ甚ク大ナル  
ベシ而シテ若シ諸銀行主諸商人ヲシテ緩急ノ時ニ  
應ゼン為メ用意金ヲ備ヘ置クコトニ一層注意セシメ  
ハ假令全ク其望ム所ヲ達スル能ハズト虽モ尚ホ幾  
分カ改良ヲ致スニ足ルベシ  
五月十一日ニ於テ急需ノ起リシ其直接ノ原因ハ蓋  
シオバールレンド、ガル子一新商會ノ破産セシナリ尤  
モ然レトモ其原因ノ一層遠隔ナルモノハ一時不換

抵當直チニ正金ニ換ヘント欲スルモノ市場ニ浮遊  
スルモノ甚ク多クシテ其勢ヒ益増加スルモノ、如  
クナリシヲ以テナリ  
要需ヲ禦カン為メ銀行ニテ貸金ニ高利ヲ付スルト  
説クモ讀者ハ之ヲ誤ツテ銀行ニテ利息ノ割合ヲ立  
ツルハ非常ノ時ニ際シ貸付ヲ乞フ人ヲ制シ且ツ銀  
行自己ノ要用ニ應セン為メ金ヲ得ルコトヲ務ムルモ  
ノナリト思考スベカラス  
右ノ如ク非常ノ時ニ際シテハ高利ヨリ得ル所ノ益  
ハ僅々ナリ且ツ至急ノ驚慌ヲ起ス時ハ銀行ニテ如  
何程割合ノ善キ約束ヲナスルハ世人ハ現ニ金ヲ手離  
スコトヲ好マサルコトアルヲ知レリ  
右ノ事情起ルハ商業ニ關スル人ヲシテ困難ヲ蒙

ムルヲ無カラシムル能ハズ然レモ非常ノ切迫ヲ療  
スルモノハ唯時日アルノミ故ニ時日ヲ経ルハ切  
迫自ツカラ歇ム所アルベキヲ諸人ニ領知セシメン  
トヲ務ムベシ而シテ如何ナル事変起ルトアリモ銀  
行ヲシテ銀行紙幣保護ノ為メニ特別ニ備ヘ置ク處  
ノ地金銀ノ一部ヲ用弁シムベカラザルナリ  
銀行ヲシテ茲ノ如ク取扱ハシムル所以ノ理ト称ス  
ルモノハ銀行ハ公共ノ性質ヲ存スルモノナリト見  
做スユヘナリ假リニ此論ヲシテ正當トナサシムル  
モ之ヲ主張スル論者即チ為換手形所持人ハ後來仕  
拂ヒヲ得可キ約定書ト交換ニ銀行ヨリ用意金ヲ要  
求スルノ権利アリトスルモノニシテ曾テ英國ニ於  
テ廣益アル工作ニ關スル人其外ニ猶ホ多クシテ為

換手形所持人ト同様ニ銀行ニ請求スベキ権利アル  
トヲ知ラザルガ如シ試ニ思ヘ工作請負人鐵道會  
社同請負人船主同製造人家屋所持人同建築人船會  
社其外幸福ノ少ナキ農業等ニ關スル人ハ何故ニ英  
倫銀行ニ請求スヘキ権利アル他ノ諸人ト同等平均  
ノ便益ヲ兼ル能ハザルカ此事ニ關係スル諸事ヲ推  
考スルニ際シ宜シク記憶シテ忘ルベカラザルモノ  
アリ即チ何時ニテモ當國ニアル用意金(意味ノ廣キ  
語ヲ以テ言フ所ハ即チ浮遊資本)ノ高ハ定額アリ  
テ變セズ是ヲ以テ一部分ノ資本ヲ取ツテ一方ニ用  
ウル所ハ一方ノ資本ヲ引上ケタルニ異ナラス盡ク  
之ヲ引上ケザルニモセヨ其一方ハ幾分力減少シタ  
ルナリ故ニ為換手形所持人ハ何時ニテモ英倫銀行

ニ至リ其手形ヲ割引スル權利アリト主張スルハ其  
 實他ノ社會ニ損失ヲ負ハシメテ一箇ノ社會ヲ利セ  
 シトスルニ異ナラザルナリ  
 衆人ノ確信固守スル所ノ説ヲ聞クニ英倫銀行ヲ  
 シテ千八百四十四年ノ條例ニ從ヒ其体裁ヲ以テ毎  
 週其勘定ヲ公告セシメシガ若シ此條無カリセバ銀  
 行ノ公告ヲシテ千八百四十四年前ノ体裁ニテ在ラ  
 シムルナリ千八百六十六年五月ノ驚慌ハ起ラザリ  
 シナラン假令些少ノ切迫起ルモ決シテ茲ノ如ク懼  
 ルハキ高點ニハ達セザルベシ又銀行ノ割引相場モ  
 亦一割ノ高點ニハ達セザルベシト余ハ此ノ論ノ謬  
 誕ナルヲ摘發スルニ臨ミ讀者ヲシテ豫メ記臆セシ  
 ムベキヲアリ千八百四十四年ノ條例ナクハ千八百

六十六年五月ノ初旬ニ於テ銀行ニアル地金銀ハ依  
 然千三百万磅以上ノ高ニシテ決シテ之ヨリ多キヲ  
 無カルベシ

故ニ千八百六十六年五月九日ト同高即ハ千

地金銀 千三百拾五万六千四百拾磅

預金 千九百貳拾九万七千三百六拾三磅

抵當 三千貳百拾八万五千四百七拾磅

ナリトセバ條例前ノ体裁ヲ以テ公告スル中ハ右ノ  
 勘定ハ左ノ如クナルベシ

負債

紙幣并ニ振出手形 貳千貳百拾六千六百五拾九磅

政府預金 五百七拾八万千八百貳拾六磅

人民預金 千三百五拾壹万五千五百三拾七磅

合計四千貳百拾万千〇貳拾貳磅

資産

抵當

正金并ニ地金銀

三千貳百拾万五千四百七拾磅  
千三百拾五万六千四百拾磅

合計四千五百三拾四万千六百拾磅

資産ノ負債ニ超ユル高三百貳拾三万七千五百八拾

八磅ハ即チ殘高ナリ殘高トハ準備ヲ云フ

トイハレバ、レンド、ガル子ノ有限負債商會ノ破産セシ

ニ因テ貨賤世界一般ノ驚駭ヲ起セシハ千八百四十

四年ノ條例大ニ之カ關係ヲ為セリト思ハサルモ

トナシ龍動銀行主郡邑銀行主其他ノ人々右ノ合本

會社ニ預金ヲ為セシモノハ其破産ニ因テ少ナク

トモ曾テ右ノ商會ニ預ケ置キシ金高位ハ他ノ銀行

ノ信スヘキモノヘ短期ノ通知ニテ引出スヘキ方法

ヲ以テ預ケ置キ各自ノ用意トセンコトヲ望ミシニ相

違ナシ然リト雖モ此時ニ際シ慎重ナル人々ハ特ニ

之ヲ用意セシノミニ止マラズ猶此上ノ不幸起ラン

コトヲ通料シ少許ノ利息ヲ損失スルニモ拘ハラズ成

ルヘク丈ケ多クノ用意金ヲ得テ之ヲ管守センコトヲ

願ヒシナリ用意金トハ英倫銀行ノ紙幣ヲ云フ然レ

氏此紙幣ヲ英倫銀行ヨリ得ントスルニハ唯三箇ノ

方法アルノミ第一英倫銀行ニ預金アリハ之ヲ引出

スナリ第二公債又ハ貨物ヲ現金ニテ賣ルナリ第三

為換手形ヲ銀行ニ送り割引ヲ為シ或ハ銀行ニテ兼

諾スヘキ物ヲ抵當トナシ貸金ヲ得ルナリ

以上三箇ノ内第一ハ其目的ヲ達スルニ足ラサルベ

シ蓋シ曾テ英倫銀行ニ預金ヲナスモノアラハ其預  
金ハ却テ増加セシナルベシ如何トナレバ銀行ニ預  
ケ金ヲナスハ危殆ナリト思フモノアラザレバナリ  
第二非常ノ時ニ際シ貨物又ハ公債ヲ現金ニテ賣却  
スルハ決シテ能ハザルニハ非スト虫モ甚ク難キナ  
ナリ故ニ大ヒナル損失ヲ為スニ非スンバ之ヲ賣ル  
ト能ハズ

第三右ノ事情ナルニヨリ手形ヲ所持スルモノハ其  
手形ヲ銀行ニ送致スルト自然一般ニ行ハレタリ  
其事情斯ノ如ク勘定ノ模様モ亦斯ノ如クナル時ナ  
レハ假令一秒時間タリモ事件ノ起ラザル時ト同様  
ノ割合ヲ以テ貸付ヲ為ストハ銀行ノ為メ豈適當ト  
称スベケンヤ而シテ旧時ノ体裁ニテ勘定ヲ公告シ

タリトスルモ(即ハ千八百四十四年前ノ体裁ヲ以  
テ公告セハ)世人ハ銀行ニテ金利ヲ騰貴セズシテ貸  
金ヲ為シ續クルトヲ知ラハ假令如何ナル体裁ヲ以  
テ勘定ヲ公告ストモ決シテ之ヲ以テ満足セザルベ  
シ

千八百六十六年五月三十日

流通紙幣并振出手形

貳千六百五拾六万貳千五百貳拾磅

政府預金

六百拾八万五千五百拾貳磅

人民預金

貳千の百六拾六万七千の七拾九磅

合計五千三百貳拾壹万八千百拾六磅

抵當

四千四百七拾五万九千百磅

金貨地金銀

千百八拾七万八千七百七拾五磅

合計五千六百六拾三万七千八百七拾五磅

殘 三百四拾壹万九千七百五拾九磅  
差引合計五千三百貳拾壹万八千百拾六磅

千八百六十六年七月四日

紙幣并振出手形

政府預金

人民預金

合計五千三百貳拾三万七千四百八拾貳磅

抵當

金貨地金銀

合計五千六百八拾五万千六百貳拾壹磅

殘 三百六拾壹万四千百三拾九磅

差引合計五千三百貳拾三万七千四百八拾貳磅

右ハ五月三十日并七月四日ハ公告ヲ假リニ旧体裁

貳千六百四拾九万七千六百貳拾四磅

六百八拾万〇貳百五拾壹磅

千九百九拾三万九千六百〇七磅

四百九拾七万四千六百七拾六磅

千四百八拾万六千九百四拾五磅

ヲ以テ勘定ヲ立テタルモノナリ是ニ由テ之ヲ觀ル  
中ハ銀行ニテ利息ヲ低下スルノ時機ヲ失ハザリシ  
ヲ知ルニ足レリ而シテ其上猶利息ヲ低下セシハ  
唯銀行ノ勘定ト外國為換ノ二者稍々旧ニ復セシニ  
依リタルトハ其後ニ公告セシ勘定ヲ檢閲セバ明白  
ナラン八月十六日ニ始メテ一割ヨリ八朱マデニ低  
下セシ時ニ於テモ其低下ノ源目ハ現在銀行ニ貯ヘ  
置リ準備ノ景況ニヨラスシテ却ツテ外國為換ト地  
金銀輸入ノ始マリシニヨレリ  
利息ノ割合速クニ騰貴スルノ懼レアル時ニ於テ銀  
行ハ尚ホ其割合ヲ低下シ平生ノ定点ヲ持セシハ之  
ヲ衆論ノ謬誤ニ根由スト云ハザルベカラズ○利息  
ノ割合ヲ騰貴スルハ結末ハ他國ノ資本ヲ當國ニ聚

集スル是レナリ當時ノ過蘖ハ其根柢頗ル前時ヨリ  
モ深カ、リシユヘ其成跡ノ顯ハルハ前時ノ如ク  
速カナラスト虫モ卒ニハ顯ハレタリ然ラハ則チ若  
シ千八百四十四年ノ條例ナケレハ利息ノ割合低下  
スベシトスルハ無根ノ空想ニシテ余ヲ以テ之ヲ考  
フレハ一層ノ騰貴ヲ醸セシナルベシ  
以上論述セシモノヲ今復タ約述スベシ  
第一紙幣発行ニ関シ銀行ノ扱向ハ唯之ガ器械タル  
ニ過ズ取締役ハ時ニ隨ツテ流通ヲ要スル紙幣ノ高  
ヲ増減スルノ權ヲ有スルヲナシ  
第二流通スル銀行紙幣ノ高ハ實際上定限無シ及復  
之ヲ説ケバ其高ハ世界ノ金ノ全高ヲ以テ定限トス  
第三正金ノ代リニ銀行紙幣ヲ発行スルノ特例ヲ許

可スルハ直チニ政府ノ監督ニ係ルモノ即チ國ニノ  
ニ限ルベシ立法官ハ紙幣償却ヲ保証スルニ足ルベ  
ト至當ノ資産無クンバ其発行ヲ許可セザルニ注意  
スベシ  
第四銀行ハ自己ノ身上ニ慘烈ナル損害ヲ招キ及  
他ノ通商銀行ニ損害ヲ貽スニ非ズンバ決シテ完全  
ナル銀行事務ノ道理ヲ避ケテ之ヲ履行セザラン  
ヲ欲スルモ得ベカラズ  
第五財政上ニ係レル驚慌ノ害ヲ避ケ或ハ之ヲ降殺  
スルノ道ハ通商ニ關スル諸人ノ敏捷ニ所存物ノ幾  
分ヲ分ツテ用意金余ハ常ニ用意ト云フ詞ヲ用ウルモ  
ノハ便用資本ト云ハンヨリハ意味分明ナルヲ以テ  
ナリニ轉換シ置クニアリ而シテ營業廣大ナルキハ



此用意金モ亦其割合ヲ増サバカラス  
第六諸銀行主諸商ノノ要用ナル準備ヲ供給スル  
充分ナル用意金ヲ英倫銀行ニニ保守スルハ難シ  
概スルニ貨賤上驚慌ノ起ル原因ハ一層便利ニ使用  
シ一層容易ニ用意金ニ換フベキ資本ヲ鎖閉シテ出  
サ、ルニアルナリ

余ハ覺ハス初メ志ガセシキヨリハ此等ノ論說ヲ何  
長ナラシメタリ然レモ銀行事務并ニ通貨ニ関スル  
件ニ付テハ勉メテ英倫銀行ト關係ヲ存スルモノニ  
ノミ吾論場ヲ限ラシメタリ之ト關係ヲ有セザル因  
有ノ銀行事務并ニ通貨論ニ至ツテハ諸名家ノ討論  
スルモノ多ケレバ之ニ論及シテ明了ナラシメント  
スルハ却ツテ自負擅行ノ嫌ヒアリ故ニ敢テセズ若

シ其論ニ志アルモノハ須ラク千八百六十六年八月  
十五日在ニ九月一日發行ノ「ロブデスド」モンテス  
中ノ二章ヲ熟讀スベシ其記者ハウロースキト稱  
シ其論題ヲ熟知洞察セシメ人ニシテ右書中ニ於テ  
千八百四十四年、英國銀行條例ノ利益ヲ充分ニ計  
値セシモノナリ又千八百六十六年十月廿日「イコノ  
ミスト」新聞中ノ「ブリストル」チャンネル、オフ、コム、マル  
ス我が東京會議ヨリ租稅院長ニ呈シタル記錄書ニ  
注意スベシ且又千八百六十六年七月三十一日通貨  
銀行事務ノ模様穿鑿ノ為メ「ロットキン」氏ノ起シタル  
勳議ニ付テ下院ノ討論アルヲ熟讀シ就中「ソル、スタ  
フォルド」ハルス、ユート「フオ」セ「ホ」バールト「諸氏」ノ黃  
說ニ心ヲ留ムルニシ

一千八百五十八年十一月二十九日  
二 於テ口授

銀行論

銀行ナルモノハ貨幣ノ貿易場ナリ之ヲ細説セバ銀  
幣ノ買賣交換ヲナシ或ヒハ受取仕拂ヒ等ノ一  
テ即チ貨幣ノ價格ヲ有セル他ノ物品ニアラズ  
唯貨幣ノ形狀ヲ具ヘタルモノヲ賣買交換受授ス  
ナリ紙幣約束手形類貨幣ノ代用ヲ為ラズモノ而シテ  
テ交易スヘキ一定ノ價格ヲ表スルガ為メニ文明諸  
國ニテ用ラル是ノ貨幣ナルモノハ人類ノ為メニ欠  
ク可カラサル諸物ノ貿易ヲ便ニセシカ為メナリ  
扱銀行ノ一法アルコリシテ世人ノ受ル所ノ便益ト  
節儉トヲ觀察スル際以吾人ノ立シテ余カ茲ニ揭

ケタル銀行ナリ字面ノ釋義忘ルセザルヲ以テ最  
モ緊要ナリト如何トナレハ世人皆認メテ銀行ハ  
其資本ヲ増加スルニ目テ一國ニ現在セル貸財ヲ増  
加スルノ大權ヲ有セリトナスモノ甚タ多シ蓋シ銀  
行ニテ此ノ資本ヲ新創スルノ權カチ有スルモノト  
ナスハ必ラズ資本ノ旨趣ヲ謬マル所ロアレバナリ  
此ノ講述ノ好機ニ投シ余ハ如何ナル意味ニテ資  
通債トノ二語ヲ用ウルヤヲ説明セントス抑余カ用  
ウル資本ナル語ハ何等ノ物品ヲ問ハズ人生ノ必  
ニシテ且ツ交換スヘキ物ノ蓄積シタル者ヲ指シ  
亦ト云ヒ銀行紙幣又ハ金銀ヲ論セズ通例債幣ト稱  
スルモノヲ呼テ通債トナスナリ然レドモ余ハ此ノ  
二語ノ適切ナル釋義如何ニ関シタル論說ト及ヒ

此二語ハ曾テミル其他碩学ノ関ハアル諸士ガ明  
解シタルトアルヤ否ヤ論說ヲ以テ緊要ナラズト  
セシト認メラル、ヲ欲セサルナリ今余カ自家ノ釋  
義ヲ以テスルモノハ他ナシ余カ釋義ハ以テ目下  
講述ニ十分ナル關係アリト思考スレハナリ  
余既ニ上文ニ於テ銀行ハ資本ヲ新創スルノ權  
ト認メラル、ト畧言セリ其故何ゾヤ銀行ハ資本  
貸付又ハ資本ノ代トシテ常ニ用ウル所ロノ信用ヲ  
與ルヲ以テ動モスレハ銀行ハ資本ヲ新創スト認メ  
ラレ銀行ノ此フル處ロノ貸付金ト信用トハ一國現  
在ノ資本ニ加タルモノナセリ何レノ國ヲ論セズ  
總テ資本ハ之ニ一ノ利源ニ採ラサルハナシ其利源  
ナルモノハ乃一歳ハヨリ歳出ヲ任拂タル差引残高

是レナリ此ノ一列致高ト棄ルトハ決シテ一ノ資  
本ヲ得ルノ道ニキ、吾人カクク記臆スベキモノナ  
リ  
上古剽昧ノ世人カヲ以テ産出シタル物産ハ直チニ  
之ヲ消費シ盡スノ時ニ当リテヤ資本ト名ツクベキ  
モノアルナレシ此一羣ノ人民ト魚モ其時世相應ノ幸  
禍ヲ享有セサルニアラサレ氏事物ノ形况此ノ如ク  
間ハ決シテ資本ヲ所有スル能ハサルナリ然ルモ此  
一群ノ人民又ハ其部落ニテモ其物産ヲ消費スレ  
高ハ其産出高ヨリ寡ケレハ則チ其贏餘ヲ積ム  
貯蓄スルニ至レバ其貯蓄ハ即チ資本ト成ルナ  
若シ其物タル將來ノ需ニ供スヘク若クハ他物ト  
交換スヘキ質ヲ具フルニ於テハ再ヒ物産ヲ産出ス

ルニ利用スヘキ資本タルヲ知ルヘシ若シ此二質ヲ  
含有セサル片ハ如何ニ巨額ノ黄金又ハ貨物アリ  
常テ價格ナキカ如シ余ハ茲ニ黄金ナル一語ヲ記載  
シタルニ付是ノ一品指シテニ関シ一言セント  
ク貯蓄ニ堪タル金屬中黄金程能カ少キ者ハナシ  
夫レ黄金ハ商品中ノ一物ト為スヘキモノニ相違ナ  
シ然レ若シ貨幣ノ鑄造ニ用ナカラシメバ金屬中即  
チ礦物中一ノ劣等品ノミ  
前ニ論述シタル手續ヲ以テ余カ呼テ資本トナス所  
口ノ所有品ニ畜積ヲ成スニ至ルニ非ラサレハ銀行  
主ノ営ム如キ職業アルヲ要セス若シ又貿易ヲ実行  
スヘキ物貨ナラシメバ貿易ノ便利ニスル銀行アル  
ルヲ要セサルナリ又銀行ノ營業ハ貨幣ノ貿易媒

ト成リテ普ネ世一用母ラレ以前ヨリ成立シタ  
ルニハアラサレテ信不余ハクローク氏ノ銀行  
事務ニ付近頃ニ發兌シタル數節ヲ茲ニ引証セン  
銀行ノ營業ハ紀元千六百年代マテハ常テ英京龍  
動ニ行ハレタルトナカリキ其後金匠等ハ保護ノ  
為メニ預リタル金銀ヲ政府又ハ人民ニ貸付タリ  
シハ其營業ノ英國ニ行ハレタル濫觴ト云ツヘシ  
歲月ノ久キ其營業ハ專ラ金匠等ノ家ニ行ハレ其  
取扱ノ振合モ現今ノ方法ト殆ント大同小異ナリ  
何レノ時代ニテモ苟モ文明ノ稱ヲ得タル國々  
ハ多分銀行ノ營業アリシナリ夫ノ希臘羅馬ノ銀  
行主モ其營業ノ體裁ハ大抵當時ノ銀行主ト同様

ニシテ唯紙幣ヲ發行セサルノミ違銀行主ハ何時  
ニテモ切手又ハ命令書ヲ以テ請求スル片ハ即時  
ニ仕拂フ可ク又ハ期限ヲ定メテ返却スヘキ預金  
ヲ受取り時トシテハ預金ニ利息ヲ付シ時トシテ  
ハ付セサルモアリ這等ノ銀行主ノ得タル利益ハ  
預主ニ仕拂フ利息ヨリモ幾分カ高利ヲ収メ之  
ヲ貸付ルヨリ生セリ加之ナラズ雅典コルニス  
馬等ノ貨幣ヲ以テ外國ノ貨幣ヲ估價シ或ヒハ之  
ヲ兩換レ或ヒハ之ヲ為換手形ヲ賣買スル等ナリ  
際シテ之ノ云ヘハ廉直ニシテ欺詐ナキカ為メニ  
世人ノ貴重ナル所トナリ之カ為メニ世人ノ信憑  
ヲ取ル至シ  
右ノ銀行カ取ル金利ハ割合ハ時トシテ甚ク

大歳

高利ナリシ、アリ是世人ノ專言ヲカ如ク銀行  
主ノ貪婪厭ク無キ、致ス所口ニアラズ重ニ負債  
ノ償却ヲ逃トスル、便ナ負債者ニ與フルカ如キ  
國法ノ虧累アルカ為メニ遂ニ銀行主ヲシテ高利  
ヲ賦シテ以テ自ラ護テシムルニ至レナリ  
降テ近世ニ至リ銀行及ヒ為換ノ事務ハ一時全ク  
「ユース」人種「ロシバ」ス以太民利ノ占有スル所ト  
ナレリ

斯ノ如ク孰レノ國ニ於テモ貨幣ノ通用スル地方ニ  
ハ銀行ノ營業必ス之ニ從フハ恰モ自然ナラシムルノ如シ夫レ  
分業ナルモノハ經濟上普通ノ主義ナルカ故ニ亦何  
レノ地方ヲ問ハス貨幣アリテ普通ノ用具トナレハ  
則銀行モ亦普通ノ營業トナル猶屠者麵包師ノ景モ

便宜ニシテ且節儉ナル方法ヲ以テ人生必需ノ食品  
ヲ分配スルカ為メニ彼此皆必用ニシテ輕重ナキカ  
如シ又銀行ハ貿易ノ一品トス、キ貨幣ノ湊合スル  
溝渠ノ如ク吾人カ目下ニ使用セサル所口ノ貨幣ハ  
他人ノ用ヲ為サレカ為メニ其流通ノ道ヲ得ルニ法  
ナリ故ニ銀行主ナルモノハ借人トナリ貸人トナリ  
一人ニシテ貸借ノ二業ヲ兼任ス然レモ銀行主ノ此  
二業ヲ営ムヤ固ヨリ資本ノ新創者タルニアラスレ  
シテ只資本ノ分配者タルハ恰モ屠者麵包師ノ各自  
ノ取扱フ物石ヲ分配スルガ如ク銀行ノ一法ニヨリ  
テ生シタル時ノ省減ト貨幣ノ節約トヲ以テ世上  
ノ資本ヲ分配スルニ在請フ一例ヲ擧テ之ヲ明晰ニ  
セン茲ニ一事ヲ割メントスルニ二拾人アリテ銀

行主、屠者、麵包師、給助を受ルコトナシトセハ各人皆  
一千磅ノ資本ニ要シ功ヲ竣レマテニ三十日ヲ費ヤ  
ス可キニ若シ此三者ノ商業起リシ後ハ此二十人ノ  
前同様ノ工事ニ為スニ各人僅ニ五百磅ノ資金トニ  
十日ヲ要シテ成功ヲ遂ク可シ然ラバ則チ其餘ヲ移  
シテ以テ他ノ利益アル事業ニ使用スヘキ金額一萬  
磅ト日數十日ノ節儉ヲ世上ニ興フルニアラスマヤ余  
ハ再々諸君ノ聽ヲ煩ハサン此等ノ場合ニ於テ銀行  
主、屠者、麵包師、孰レモ資本ノ新創者ニアラズ唯現存  
資本ヲ節減スルノ經濟カアリテ物品再産ノ用ノ為  
サシカ為メニ資本ヲ流通シ之ヲシテ渋滞ノ憂ナ  
ラシムルノミト然ルニ諸子中或ハ憮然トシテ言フ  
者アラシ

日先生ノ貯金ヲ預カリ又他人ニ属シタル債權ノ  
仕拂ヲ為ス所ノ銀行主ヲ論スルハ小子既ニ命ヲ  
聞クヲ得タリ然レモ先生ノ説ハ紙幣ヲ發行スル  
ノ銀行主ニ當リ可ラズ如何ニトナレハ銀行主  
リテ未タ曾テ銀行紙幣無キ地方ニ於テ新タニ毫  
萬磅ノ紙幣ヲ發行セバ是即チ毫萬磅ノ資本ノ新  
創シタルヲ以テナリト

此等ノ思想ヲ懐クハ世間其人多シ諸子幸ニ余カ明  
ニ此ノ一項ヲ分解スルノ數秒時間ヲ厭倦スル勿レ  
第一銀行主ノ如何シテ毫萬磅ノ紙幣ヲ發行シ之ヲ  
流通セシムルカヲ考察セヨ夫レ銀行主ハ為換手形  
ヲ割引スベシ是他日若干ノ金額ヲ仕拂フ可キ約束  
ナル他人ノ約束手形又ハ為換手形ヲ持參スルモノ

アレハ自己ノ約束手形ヲ以テ之ヲ代用スルナリ又  
貨物ヲ買ヒ入ル可シ是世人ノ貨物又ハ所有品ヲ得  
テ後日需要ノ時ニ應シ其代價ヲ仕拂フノ約束ヲ與  
フルナリ又自家ノ紙幣ニテ貸付ヲ為ス可シ是亦請  
求ニ應シテ仕拂フベキ約束ヲ與ヘ其借人ヲシテ他  
人ヨリ資本若シクハ貨物ヲ得セシムルナリ  
第二銀行主タルモノハ世人ノ認メテ豪富トスル者  
ニアラサレハ以テ人民ヲシテ銀行紙幣又ハ約束手  
形ヲ所有スル猶自己ノ金銀ヲ保藏スルカ如クナラ  
シムル能ハズ  
扱余カ茲ニ指示シタル方法ハ孰シモ資本ノ利用ヲ  
得セシムルノ良法ナルヲ故ニ若シ銀行主ヲシテ謹  
慎持重ノ人ナラシメハ遂ニ富人ト成ルヲ得ベシト

金モ決シテ銀行主ノ已ニ所有シタル資本ヲ増加ス  
ルヲナキナリ  
銀行主ノ割引シテ得タル貯口ノ為換手形ハ資本ニ  
アラスレテ只後日負債ヲ仕拂フベシト約束シタル  
紙片ノミ又貸付タル紙幣モ資本ニアラスレテ只仕  
拂ヲ為スノ約束ノミ又銀行主ノ自ラ買ヒ又ハ他人  
ヲシテ買ハシメタル貨物ハ購求スルノ手數ニシテ  
敢テ利益アルニアラス請フ諸子カ好ム處ノ手段ヲ  
用テ是ノ論旨ヲ討究セヨ諸子ハ必ク銀行紙幣ト其  
他銀行各種ノ方法トニ目テ大ニ資本流動ノ道ヲ疏  
通シ之ニ因テ無限ノ便利ト無限ノ節儉ヲ興スト金  
モ紙幣ノ發行ハ竟ニ資本ノ増加ニアラサルヲ悟ル  
可シ請フ余カ前段ニ掲ゲタルニワックロツク氏カ著

大蔵省



書ヨリ再ヒ一節ヲ茲ニ引用セシ是余カ説ノ妄誕ヲ  
ラサルヲ証ス可シ

銀行ナルモノハ資本ノ集合ト其散布トニ付テハ  
貴重ナル裨益ヲ為スニ相違ナシト雖モ間マ世人  
ノ誤認スル如ク銀行ハ直ニ資本ヲ新創スルノ勢  
カアリトナス可ラズ原来資本ヲ新創スルハ勤業  
ト節儉トノ合併力是レナリ勤業ハ人生必須ノ物  
品ト其幸福ヲ進拔スヘキモノトヲ製出シ節儉ハ  
將來ノ需用ニ供セシカ為メニ曩ニ製出シタル物  
品ヲ貯蓄スルヲ以テナリ  
蓋シ信用ナルモノハ債主ト名ケタル一團ノ人民  
ヨリ借人ト名ケタル一團ノ人民ニ貨幣其他貴重  
ナル物産ヲ交付スルノ謂ニシテ其交付ノ取扱ハ

各銀行ノ設立アルニ依テ大ニ便利ヲ益シタルモ  
ノナリ而シテ其借人ノ中十ニ八九ハ資本ヲ運用  
スルノ妙其債主ニ勝ルハ必然タリ故ニ若シコノ  
想像ヲシテ大過ナカラシメハ則一人ノ手巾ヨリ  
資本ヲ取テ之ヲ他人ノ手巾ニ轉移スルハ公益ニ  
ルノ所為ト云ハサルヲ得ズ然リト雖モ是特ニ信  
用ト名ケタル肝要ナル勢力ノ體面ヲ言ヒタルナ  
レバ世間往々其例アル如ク若シ誤テ資本ノ博徒  
惡漢ノ手ニ落ルトアレハ之ヲ有害無益ト言ハサ  
ルヲ得ス  
信用ノ方法ニ因テ非常ニ大ナル事業ヲ営ムアリ  
トハ吾人カ毎ニ聞知スル所ナリ然レハ是諺見  
ノ最ニ甚シキ者ナリ試ニ其営ム所ノ事業ヲ分拆

セヨ其事業ハ必ス借財シタル資本ノ方法ニテ經營スルヲ指シタルノミ  
抑信用ナルモハ一物ヲモ産出スルノ勢カナキモノニシテ其實ハ唯債主ノ借人ニ委任シタル名義ノミ然ルニ資本ハ即信用ナリト呼ブモノハ猶ホ五彩ヲ視テ重量トナシ重量ヲ認メテ五彩ト為ルノ類ニシテ文義ノ誤解モ亦甚シカラズヤ唯甲ヨリ乙ニ貨幣ヲ轉移シ若クハ丙ヨリ丁ニ貨幣ヲ振替ユル類則是チ信用ト稱ス可シ信用ノ活用ニ為ス限界ハ唯是レノミ故ニ稱シテ信用大ナリト云片ハ他人ニ貸與スヘキ貨幣又ハ資本ヲ所有シタル人ノ之ヲ借用セシト欲スル人ヲ信憑スルノ厚キヲ指シ若シ信用以テト云片ハ之ニ及スル者

ナ指シタルナリ

今ヤ余ハ他ノ進路ニ論及セントスルニ先ツテ前段ニ銀行ハ紙幣ヲ發行スルニ因テ一國ノ資本ヲ増加スルト無キニ關シテ畧説シタル者ヲ誤解セザラシムンカ為メニ猶ホ茲ニ之ヲ追説セント欲スルナリ若シ銀行主タルモノ人民ナレテ其發行ノ紙幣受取ラシメタル後程ナク取附ノ為メニ其紙幣戻ルト無キ片ハ銀行主ハ始テ自己ノ資本若クハ自己ノ紙幣ト引換ニ受取リタル他人ノ資本ノ一部ヲ利用スルトナ得ズシ果シテ然ラハ其使用シタル金額丈ハ利益ナキニ堪所ヨリ取テ之ヲ利益アルノ地ニ投シタルナリ  
蓋シ一國ノ使用ニ供スルカ為テニ要スル貨幣ノ高

愈々少キトキハ則物價再産ノ用ニ供スル資本ノ高  
愈々多カル可シ如何トナシハ貨幣ナルモノノ總テ  
実益ナキ資本ナレバナリ  
右ノ一節ハ頗ル奇異ニシテ疑シキモノアラン請テ  
再々虚心傾耳余カ言ヲ終ヘシメヨ余ハ將ニ之ヲ覆  
明セシカ為メニ茲ニ貨幣ノ初メテ人間ノ用ヲ為シ  
流通ヲ起シタルノ權輿ヲ演ヘテ以テ諸子ニ告ケシ  
トス

吾人ノ皆明知スル如ク往昔蒙昧未開ノ世界ニ在リ  
ハ人民曾テ一片ノ貨幣ヲ要スルコトナカリシナリ  
後漸々ニ使用スヘク又ハ交換スヘキ消費外ノ贏餘  
アリテ若干ノ資本ト成リシヨリ以來物品ト物品ト  
ノ交易漸ク世上ニ行ハレタリ然ルニ貿易ノ媒介無

クシテ是ノ業ヲ管ムハ極メテ煩雜厭フ可キノ事ナ  
ラズ自然浪費ナキ能ハルヲ以テ終ニ貿易ノ媒介  
ト為スヘキ定度アル一物ヲ要スルニ至リシナリ  
然ルニ当初貨物ノ貨幣ト交換スルヤ其荷主若シ貨  
物ト引換ヘニ貨幣ヲ得テ直チニ他ノ取引ニ掛リ  
キニ請取リタル貨幣ヲ盡ク仕拂タラシニハ今買  
入レタル物品ヲ何程多分ニ所有スト雖モ囊中一物  
無キハ恰モ前ニ異ナル無ラントス故ニ將來ニ此不  
便ヲ避ケ且ツ一層ノ便利ヲ以テ商業ヲ管マシカ  
ルモ若シ本人ノ嫌ハサル以上ハ保護ノ為メニ若干  
貨幣ヲ割テ之ヲ銀行主ノ手元ニ托スルニ至ル可シ  
然ルニ自カテ之ヲ保藏スルモ又ハ銀行主ノ手ニ托  
スルニ貨幣ノ形狀ニテ存スル間ハ其所有主ニ取リ

テ何程貴重ナリト雖ニ其煩幣 悉ク實益ナキ者ト  
セサルヲ得ズ  
顧フニ諸子 敏捷ナル理晰シテ此ニ至レハ余ニ司  
意シテ思考セシ貨幣ノ形状ヲ具ヘタル金銀ハ果  
テ實益ナキ資本ナリ故ニ此類ノ資本殊々少キレ  
則チ一國ノ資本ハ彌々利益多ク用テラレ可シト  
余カ殊更ニ用テラレズレハ六字ヲ茲ニ用テタルモ  
ノハ抑モ故アルナリ蓋シ余ヲ以テ之ヲ視レハ金銀  
ハ利益ナキ者ナルモ世人ハ一國ニ於テ常ニ巨萬ノ  
金額ヲ貯ルノ緊要ナルヲ蔑視スト認ムルヲ恐レ  
ナリ  
余ハ初ノヨリ銀行法ノ廣大無邊ナル利益ヲ蔑視ス  
ルニハ非シ且銀行ニ基ツキタルハ信用ノ主 若シ請求次

第直ニ正金ヲ以テ仕拂フヲ要セサル銀行紙幣若ク  
ハ世界ニ其價格ヲ知ラレタル金貨同様ニ物品ノ代  
用トシテ受取ヘキ銀行ノ約束手形等ニテ斯ク信用  
ノ廣大ナルヲ致サシメハ吾人ノ銀行法ヲ見レ厚  
ニ過キテ損得相償ハカルニ至ルヲ知ルナリ  
然リト雖モ今試ニ銀行ノ資本ノ流動ヲ疏通シテ以  
テ貿易ヲ進捗シ全國皆其惠ニ頼ル處口ノ方法ナレ  
トセハ資本ヲシテ實益ナキ地ニ沈淪セシムル下必  
ズ夥多ナルズレ故ニ資本ヲシテ實益ナキ不利ノ  
ニ沈淪スル甚ク寡ナルヲ得セシムル所ノ銀行  
ニ依頼スルハ是レ則チ嚮キニ示シタル主義ト符合  
スト余カ首唱スル所以ナリ  
今ヤ余ハ銀行主ノ為ニ能ハサル者 資本ヲ新列スル

大蔵省  
大蔵省  
大蔵省

ヲ論スル頗ル冗長ニ過キルカ故ニ請フ吾人ノ思  
想ヲ轉シ銀行主ノ為シ得バキ諸點ニ及ホシ資本ノ  
節儉ト其利益ノ存スル所トヲ探討セシメヨ  
他國ハ知ラズ當國ニ於テ銀行修ムル所ノ大主  
ハ益資本ノ節儉ヲ勵マシ且日々各人ノ間ニ行ハレ  
取引ニ便利ヲ與フルニ在リ而シテ此商業ハ徒ニ  
富家豪商ノ大金ヲ取扱ヒ又ハ莫大ノ取引ヲ為ス入  
々ノ利益アル者ト認ム可ラズ當國ノ如キハ何程  
貧窶ナル細民ト雖モ此論ニ關涉セサルモノナク  
賣商人モ莫大ノ節儉ト寡少ナル資本ニテ生業ヲ営  
ムヲ得ヘシ如何ニトナレハ上下貴賤ノ別ナク一般  
人民ノ要スル所ノ物品ヲ製セシカ為メニ未製物  
ヲ買入ルハ銀行ノ興ハタル便利ニ藉テ確カナル

利ヲ得レハナリ加之夫ノ家蓄羊毛石炭木財等ノ商  
人其他一般ニ直接ト間接ト異ナルアリト雖モ銀行  
ノ便利ヲ受クルニ至テハ一ナリ身ニ襤褸ヲ穿テ  
ニ藜藿ヲ喰ヒ其購フ所ノ物品ハ成ル可ク其手  
ニ求メサルヲ得サルノ貧人ト雖モ外面ヨリ之ヲ寬  
ハハ稍懸隔アルカ如シト雖モ亦上文同様ノ理由ニ  
目テ其便利ヲ享クルヤ毫モ異ナル所口ナレ  
若シ余カ説ノ諸子ニ釋然タラサル者アレバ請フ試  
ニ回顧セヨ吾人若シ祖先ト同様ニ物品トヲ交易ス  
ルノ一法ニ依頼スルノ不幸ニ陥リ加之ナラズ世  
ニ信用ナル也法ナクシテ各人日用必須ノ物品ヲ買  
ハシカ為メニ仕拂フ所ノ貨幣ハ盡ク之ヲ官身ニ  
纏フノ不便ニ沈マシハ皆般ノ商業ヲ感動スル果

レテ如何ソヤ

上世已ニ銀行一商業トシテ行ハレ下ナリト雖モ  
千七百年代ノ初頭迄ハ一箇獨立ノ商業トシテ成  
セレハ余カ信セサル所ナリ英倫銀行ノ如キハ実  
一千六百九十四年英王第三世維廉ノ特許ヲ奉  
業ヲ創メタリレド明カナリ然レモ当初ハ勿論  
トテモ大抵政府ノ公事ニノミ使用セラレ目今銀行  
ノ施行スル当國百般ノ商業ヲ便利ニシ緊要ノ務  
ヲ起セレハ千七百年代ノ中葉ニシテ今ヲ距ル一  
一百年以來ノ一ナリ

英倫銀行ニ於テ日々管ム所ノ業ハ唯英國各市街各  
村落ニ於テ僅カニ行ハルノ事業ノ集合セルモノナ  
リ余ノ諸子ニ告グルニ此ノ度ヲ以テスルモノハ他

ナレ銀行商業ノ緊要ナルヲテ説明セニハ英國最  
大ノ銀行即英倫銀行ノ施行スル者ヲ以テスルヨリ  
善キモノナキカ為メナリ此商業ノ旺盛ニ趨キタル  
往迹ヲ觀ルニ一千七百五十年ニ於テハ英倫銀行  
銀行部ニ於テ日々請入高平均凡ソ十八萬磅ナリ  
モ一千八百五十七年ニ於テ同部日々ノ請入高平均  
凡ソ三百五十萬磅マテニ増加シタリ而シテ英全  
ノ銀行事務モ同様ノ割合ヲ以テ増加シタルハ余カ  
嘗テ疑ヲ容レサル所ナリ

今ヤ余ハ英倫銀行ニテ管ム通常事務ノ性質ヲ分  
セント欲ス美ニ其事務ハ三種ノ質ヲ具ヘタルモノ  
トシテ之ヲ思考スヘシ而シテ其三部ハ孰レニ再  
之ヲ細分ス可キモ茲ニ先ニ三部ヨリ成立シタル者

ト做レ之ヲ論述セシトス

第一 國債部

第二 紙幣發行部

第三 公私銀行部

以上三部ノ事務ヲ詳細ニ説明スルニ諸子ハ翻ク厭  
倦スルト無ラントス

第一 國債部

何人ヲ問ハス定期ニ於テ返辨ヲ得ヘキ確乎タル  
條アルニ非ラサルバ金銀ヲ政府ヘ資給スルモノ無  
カル可シ又其約條ハ如何ナリ元金、利子或ハ元利  
合セラ之ヲ買ハントヲ願フ者アレバ其約條ヲ也  
ハ譲リ渡シ何時ニテモ債主ノ要スル共ハ其金銀ノ  
返辨ヲ得ルノ良法ト及ヒ年々政府ヨリ仕拂フ可キ

利子ノ内若干ヲ正金ニ引換ント願フハ其望ニ應  
シ讓渡スルヲ得ヘキ良則アルニ非ラサレハ金銀ヲ  
政府ヘ資給スルモノ無カル可シ故ニ茲ニ明示  
ルカ如キ便宜ヲ公債ノ株主付與スルハ政府ノ募  
スル公債ニ於テハ必ラス避ク可カラサルノ約條  
成リシナリ我カ英國ニテ政府ノ募リタル各公債ノ  
如キハ其讓渡シ常ニ自由ニシテ且其利子ハ每半  
英倫銀行ニ於テ之ヲ仕拂フテハ約條中ノ一ト  
シテ請求セラレ而シテ英國政府ノ固ク其約條ヲ  
踐シ常テ違フヲナキハ即チ英國ノ公債ヲシテ何  
ニテモ人民ノ資本ヲ却スノ良因タラシメタル一  
原ナリ

余ハ英倫銀行ノ如此公債台募ノ要具タリシヲ以テ

大蔵省

敢テ殊勝ノ事業トセザルナリ若シ此一大會社ナカ  
リセハ政府ハ必ス別ニ類似ノ器具ヲ發明スルニ然  
ラサレハ斯クマテ便宜ナル約條ニテ貨幣ヲ人民ヨ  
リ借用スルヲ得サレバナリ  
然レハ諸子ハ今余カ後段ニ論述スル所ニヨリテ  
今銀行ノ後事スル所ノ職務ハ決シテ輕視ス可カラサ  
ルヲ了知スル

抑合衆王國公債ノ總額ハ七億三千零九十八萬六千  
八百萬磅ナリ

而シテ茲ニ一ノ制限ヲ規定シ其制限内ハ幾口ニ  
之ヲ細分小拆スルヲ得ベシ其制限トハ何ソヤ可  
ニテモ貨幣一ペニ大抵我ルニ高ヨリ少キ勘定  
ヲ所有ス可ラハル是ナリ此ノ一箇ノ制限アルノミ

ニシテ何又ヲ問ハス其姓名ノ一度タヒ銀行ノ帳面  
ニ附込レタル後ハ何時ニテモ其全額又ハ其一部ヲ  
割テ之ヲ賣拂ヒ銀行ニテハ賣手買手ノ雙方ハ  
掛ルヲナク賣手ハ公債仲買人ノ手ヲ經ルヲ於  
ハ幾人ニテモ之ヲ分譲スルヲ得ベシ但シ公債賣買  
ノ間ニ公債仲買人ヲ容ル、モノハ或ハ非望ノ徒自  
ラ株主ト稱シ詭計ヲ其間ニ逞フセントスルヲ豫防  
シ銀行ヲ安全ナラシメニカ為メナリ  
扱又毎ニ半季利子ヲ仕拂フ可キ公債ノ勘定ハ余  
嚮キニ検査シタルモノニ據レハ凡二十一萬四千  
ナリ然レハ尚ホ此上ニ多人数アリテ此ノ公債ハ各  
自ノ貨幣ヲ卸サン<sub>一</sub>願フモリアレハ其株主今日  
ノ數ニ十倍スルニ更ニ妙ヲナキナリ而シテ何程勘



定ヲ小分スルハ銀行ノ政府ヨリ請取ル所ノ手数料  
ヲ増加スルヲナクシテ其勘定ヲ取扱ハサルヲ得ス  
而シテ毎半季其勘定一箇ニ各一箇ノ傳票ヲ製シ之  
ヲ以テ利子ヲ拂ヒ渡シ銀行ハ毎半季一纏メトシテ  
政府ニ納ムハキ産業税ヲ是時ニ當リ各自ノ勘定  
リ差引タナリ  
利子ハ満期ノ翌日ニ至レバ何人ニテモ請求次第拂  
受ヘシ満期ノ一日ハ傳票ヲ渡スノ日ナリ株主ノ氣  
ヲ龍動ニ於テ得意ノ銀行主又ハ取扱人ニ代理ノ權  
ヲ依任シ此ノ傳票ヲ以テ利子ヲ受取ラシム斯ノ如  
クニシテ現數二十一萬四千口ノ内ヨリ九十八万口  
計リノ利子ヲ受取り銀行主又ハ取扱人ハ利子ヲ請  
取りタル同日直ニ之ヲ各自ノ得意先ニ回送シ或ヒ

ハ其趣ヲ通知ス故ニ大不列顛全州ノ株主ハ同夜ノ  
郵便ニテ其株ノ利子ヲ落掌シ又ハ其全額ヲ回送シ  
タル旨ヲ領知シ或ハ其利子ノ處分ニ付兼テ指區  
シ通りニ之ヲ履行シタルヲ知ルヲ得ルナリ余ヲ以  
テ之ヲ視ルニ諸子ハ銀行ノ公債利子ノ受取方ト其  
株ノ讓渡トヲ便利ニ取扱フモノヲ棄テ他ニ至良ナ  
ル一器具ヲ發明セシテ欲スルモ決シテ其能ハヤ  
ルヲ知ルヘシ又余ハ更ニ諸子ニ告ケン夫ノ公債ノ  
些細タリハ其權利ハ銀行其責ニ任マサルヘカラズ  
而シテ時アリテ偽造ノ權書ヲ以テ公債ヲ讓渡ス  
無キニ非ズト雖ハ一度ヒ所持人ノ姓名ニテ附記  
ミタル以上ハ其所持人ノ權利ヲ連擡スル一爭論ノ  
起リレトナク且一歲中多クノ書記官ノ取扱ヲ讓渡

大  
義  
省

レ又ハ仕拂フ利子ノ全額印僅ニ一ペンニ一ノ違算  
スラモ絶テ無キ所ナリヲ以テセハ諸子ハ本部ニ於  
テ取扱フ所ノ事務ハ敢テ不手際ナラサルヲ首肯  
スルナルベシ

右ノ事務ヲ取扱ハシカ為メニ銀行ハ政府ヨリ一定  
シタル手数料ヲ受取レリ其金額ハ取扱フ可キ事務  
ノ甚タ夥多ナルカ為メ頗ル巨額ナリト雖モ余ハ其  
高ヲ甚寡少ナリト言フヲ憚ラサルナリ若シ政府ニ  
テ此事務ヲ取扱ヒナハ費ス所實ニ幾巨萬ナルヲ測  
知ス可ラサルニ以スレハ益々其手数料ノ寡少ナル  
ヲ覺ユヘシ備此ノ公債取扱ノ為メニ政府ヨリ銀行  
ニ仕拂フ所ノ高ハ六億万磅ニハ一百万磅毎ニ三  
百磅其餘ハ一百万磅毎ニ一百五十磅 割合ナレバ

其總額合セテ一ヶ年九二十万磅ナリ

第二紙幣發行部

当銀行ハ何人ニテモ正金ヲ持參スルモノアルカ号  
クハ交換セシトテ欲シテ他ノ紙幣ヲ持參スルモノ  
アレバ其紙幣ヲ發行ス若シ地金ヲ持參スル者アレ  
ハ純金一「オン」ス毎ニ三磅十七司令九邊尼ノ割合ヲ  
以テ紙幣ヲ發行スルナリ  
斯ノ如ク銀行紙幣ト引換ヘニ受取リタル正金ノ内  
一千五百万磅丈ケハ公債証書ヲ買置キ其利子ヲ政  
府ヨリ受取ルトテ得ヘク其餘ノ正金ハ準備トシテ  
銀行ノ倉庫ニ貯蓄セサル可ラス然レハ銀行ノ望  
目テ全額四分ノ一丈ケハ銀貨ニテ蓄ルモ苦ニカラ  
ズト定メラレタリ

右ノ發行紙幣ノ内九千四百萬ハ去年ノ發行ニ係シ  
リ千四百萬ハ其而シテ其紙幣ノ用紙ノミ他所ニテ  
製造スルモ其餘ハ尽ク銀行ノ構内ニテ製造シタル  
ナリ

此等ノ銀行紙幣ハ通例各五百枚ヲ以テ一包トナル  
以テ銀行主ニ發行ス然レモ余モシ諸子ニ告グルニ  
僅ニ一枚ノ銀行紙幣ニテモ之ヲ發行セシハ之ヲ  
為メニ備ヘタル帳面ニ附込ミ又發行シタル紙幣ノ  
多少ニ拘ラス交換又ハ取附ノ為メニ銀行ニ持參ス  
ルヲ得ヘク又發行ノ紙幣ハ僅カニ一日間流通スル  
モ又ハ二十年間ノ星霜ヲ經ルトモ一度ハ銀行ニ戻  
ルルハ直チニ之カ為メニ備ヘタル帳面ニ附込ミ之  
カ為メニ設ケタル場所ニ藏置シヒトモナク至若古ノ帳面ハ日

々差引勘定ヲ清算スルヲ以テ銀行ハ一日ノ事務結  
了スルニ先ヅテ其責ニ任シタル紙幣ノ總額ヲ詳知  
スルヲ得ヘキヲ以テモハ諸子ハ此ノ第一部モ亦甚  
タ不十分ノ姿ナラサルヲ領知スヘシ  
余ハ又茲ニ告クベキモノアリ英倫銀行ハ決シテ其  
紙幣ノ再發行ヲ為ササルナリ若レ紙幣ノ歸入スレ  
バアレバ之ヲ別所ニ藏置保存スルヲ七年ニシテ然  
ル後之ヲ燒却ス然レモ一時ニ尽ク之ヲ燒却スルア  
ラズ新紙幣發行ノ員數ニ割合ト時々之ヲ燒却スル  
ナリ  
千八百七十三年二月ニ終リタル前一年間銀行ノ當  
部ヨリ収メタル利益ハ十萬四千四百十九磅ニシテ  
詳カニ之ヲ言ヘハ紙幣發行ノ特恩アルカ為メニ政

府ニ上納スルモノ十三万八千五百七十八磅印税、  
代リトシテ六万磅給料地代等合テ十八万四千磅ナ  
ルハ諸雜費ヲ差引銀行ノ發行部ヨリ得ル所口ハ大  
九十万磅許ナリ

### 第三銀行部

銀行部ハ各部ノ中最モ緊要ナルモノ、如シ如何ト  
ナレハ全国ノ歳入ヲ受取り政府ノ為メニ其勘定ヲ  
取扱ヒ並ニ公用私用ハ勿論其他各會社寺ハ巨額ノ  
勘定ヲ取扱フヲ以テ銀行ノ營業ハ大ニ節儉ノ功効  
ヲ奏シ其貴重スヘキハ則此銀行部ニ在ルヲ以テ也  
リ

海關税、國産税、郵便税、正税、印紙税トシテ日々收納ス  
ル總テ政府ノ歳入ハ龍動ニ於テ之ヲ收入シ或ハ

ルンウオナル、ヘブライトス或ハガルウエー等ノ地  
ニ於テスルトモ皆直チニ英倫銀行ニ向テ送付セサ  
ルモノ無し是ヲ以テ平常政府日々ノ需用ニ供スル  
ヲ得然リ而シテ此ノ各種ノ回送ニ於テハ曾テ一塊  
ノ貨幣ヲモ要スルコトナク總テ銀行ノ取扱ニ因テ之  
ヲ結了ス例之ハ政府ノ収税官ハリバブール地ヨリ  
龍動ニ五萬磅ノ回送ヲ銀行ニ托スヘシ然ルニ同日  
又五萬磅ヲ龍動ヨリバブールニ回送セシコトナリ  
行若クハ他ノ銀行ニ求ムル者アルベシ此時ニ當リ  
コノ二箇ノ取扱ハ惟銀行ノ帖面ハ記入ヲ為シ郵便  
ヲ以テ其趣キヲ通知スルノミニシテ其事務ハ全ク  
結了シタルナリ

政府ノ歳入ニシテ平生當銀行ニ拂込マル者一週

間凡百三十万磅ノ割合ナリ其内過半ハ毎季ニ公債  
ノ利子ヲ仕拂ハシカ爲ニ之ヲ銀行ニ貯蓄スルヲ得  
而シテ利子仕拂ノ期日ニハ突然五六百万磅ヲ人民  
ニ拂ヒ渡サレモ此ノ巨額ノ仕拂前後ニ於テ貨幣  
ノ夥多ナルカ又ハ宛乏ナルカニ自キ覺テ影嚮ナリ  
シタルヲナク銀行通常ノ取扱ヒハ斯ク巨額ナル貨  
幣ノ運轉ヲ便利ニシ容易ナラシムルヤ此ノ如シ  
右ノ取扱ニ向テ銀行ノ政府ヨリ受取ル處ノ手數料  
ハ公用勘定ノ差引残高是レナリ其差引残高ナルモ  
ノハ利子仕拂ノ翌日ニハ皆與ナルヨリシテ次第  
々ニ次ノ仕拂期限ニ入用ナル高ニ纏マル迄ノ間  
アリ若レ万一次ノ仕拂ニ於テ不足ヲ生スルハ銀  
行ハ其不足高ヲ立替置キ又其次ニ蓄積スベキ政府

ノ歳入ヨリ返却セララルナリ  
諸右ノ説話ハ唯公用銀行部ニ適用スルニアテ  
テ試ニ眼ヲ轉シテ私用銀行部ヲ察スレバ其利益ト  
便利トハ同様ニシテ毫モ異ナル所アルナシ  
私用銀行部ニ於テ各種ノ事務ハ通常ノ得意先ノ  
爲メニ営ム業ナレハ得意先ノ儲蓄金ハ銀行部ヲ經  
テ卸スヲ得ヘク且銀行ハ各種ノ利子又ハ公債等ノ  
割賦金ヲ得意先ニ代リテ受取り得意先ノ勘定中ニ  
分入レヌ銀行ノ抵当ニ収メタル所有物ハ得意先ノ  
爲メニ引受テ之ヲ預ル可ク又他ノ銀行部同様ノ方  
法ニテ得意先ノ正金其他公債証書ノ類ヲ保存スハ  
ク並ニ得意先ノ要求スベキ受入ト仕拂トニ付テハ  
他ノ銀行部同様ノ便利ヲ與フ故ニモシ鐵道勘定ト

レテ巨額ノ預金ヲ要スルカ或ハ正金ヲ送シテ外  
國ニ巨額ノ仕拂ヲ要スルハ現ニ成ニセル方法ニ  
目テ雙方ノ便利ヲ達シ國中通常ノ商買ニハ少モ差  
響ヲ起スヲナク日々此ノ如キ大ナル取扱ヲナスナ  
リ假令秋毫タモ不便利ノ起ルヲアリ且英全國中ニ  
遍ク行ル、銀行ノ良法アルカ為メニ其不便利ト目  
スヘキ者ハ誠ニ瑣々タル小事ナルノミ  
今ヤ余ハ專ラ英倫銀行ニ於テ嘗ミタル銀行一般ノ  
方法ト其事務ノ措辦方ヲ畧示シタルナリ然リ而シ  
テ此說話ハ以テ龍動中許多銀行ノ取扱ニモ適用ス  
ベク而シテ其聚合シタル總數ハ之ヲ當銀行ノ事務  
ニ以スレハ負カニ廣大ナルアリ抑當銀行各種ノ預  
金ハ平均ニ千八百万磅ニ過キズ然ルニ龍動ニ於テ

諸合本銀行主ノミニテ其預金ノ高ハ之ヲ過般ノ通  
常報告ニ徵スルニ遙カニ一億万圓ヲ越タルカ如シ  
而シテ此ノ合本銀行ニ外ニ尚ホ龍動中ニ八九五  
十社ノ私立銀行アリテ大槩ハ通常ノ銀行事務ヲ管  
ム者ナリ  
龍動通常銀行事務ノ廣域ヲ知ラント欲セハ龍動交  
換所ノ仕組ヲ提出スルヨリ善キハナシ此所ニ於テ  
取扱フ事務ノ性質ヲ諳知セサルノ人々ニ對シ余ハ  
簡略ニ次ノ說話ヲ陳シ抑交換所ナルモノハ一箇  
ノ巨屋ニシテ龍動中ノ總銀行主ハ日々一名ノ手代  
ニ龍動銀行主ノ内ニテ仕拂フ可キ為換手形又ハ切  
手ヲ托シテ其所ニ出頭セシムルノ會所ナリ而シテ  
手代ヲ派遣シタルノ銀行主ハ日々ノ取引ニテ得意

先ヨリ各自ニ送リタル為換手形切手ヨリ代金ノ取  
立ヲ為シテ其得意先ノ勘定ニ附込ル可キモノヲ受  
取り或ハ互ニ交換スルヲ得ルナリ

此交換所ニ於テハ如斯為換手形切手等ヲ互ニ交換  
スルヲ得ルカ故ニ各銀行主ハ取付ノ為メニ自家ノ  
店頭へ持參スル手形切手等ノ為メニ毎日多分ノ金  
銀ヲ豫備スルニ及ハズ唯晩下事務ノ終リニ於テ自  
家ノ負ヒタル最後ノ差引不足高ヲ那移シ交換所ノ  
手續ニ回テ之ヲ自家ノ負ヒタル諸人ニ分配スルマ  
ナナリ

右ハ交換所方法ノ大要ニシテバツペーシ氏此ノ旨  
趣ニ付刊行シタル説ニ據レバ此ノ方法ニ由リ一千  
八百三十九年ノ一歳中諸勘定結算ノ總高九億五

四百萬磅ノ内銀行紙幣ニテ仕拂タルモノハ總計六  
千六百二十七萬五千磅ニシテ總高ノ七分ニ當リ  
若シ此交換所ノ便宜ナカリセバ此巨額ハ必ス通貨  
ニテ備へハルヲ得サルナリ爾後一千八百五十六年  
迄ハ銀行ノ節儉ニ聊カモ變動ナク茲ニ示シタル如  
シ然ルニ斯ノ年ニ於テ交換所ノ方法ハ更ニ一層ノ  
改良ヲ為シタリ今其由來ヲ繹ルニ日々銀行主ト銀  
行主トノ間ニ生シタル差引不足高ハ今後總テ英倫  
銀行ノ切手ニテ決算スル丁ニ一定シタリ而シテ一  
千八百七十二年日々諸勘定ノ決算ハ曾テ一片ノ銀  
行紙幣一塊ノ金貨ヲ使用スル丁ナクシテ一ヶ年合  
セテ五十八億九千三百四十四萬六千磅ノ巨額決算  
シ且ソル縮シエシルノホウク民ハ本年交換所ニテ

交換スヘキ總高蓋シ六十億万磅ニ却過スベシト  
見積リレ故ニ此約定ハ能ク行ハレタリ一千八百七十  
十六日下院ニ據テ同氏ノ

右龍動交換府ノ方法ハ乃チ英吉蘭蘇格蘭愛耳蘭  
各部ニ於テ日々ニ起ル些細ナル交換ノ集合シテ一  
大體ヲ為シタルノ的例ナリ

儲又都府若クハ郡邑ニ在ル一銀行ノ日々蓄置スル  
事務モ亦斷ヘス各人ノ間ニ通貨ヲ交換シ或ハ一二  
ノ方法ニ據リ信用ヲ交換スルノトアルノミ

茲ニ甲乙二人アリ甲ハ乙ヨリ地所家作又ハ其他  
資産ヲ買取ルトアル金銀ヲ積ミタル車ヲ挽キテ  
其代價ヲ乙ニ渡スベシ乙ハ兵手續ニテ代金ヲ受取  
リ又自身負債アル丙丁乃至ハ戊己ハ多少之ヲ送

致スヘキモノ今ハ則チ當「ビートルホロ」ハ勿論ハ  
不列顛何レノ都會何レノ村落ヲ問ハズ至ル所銀行  
主アリテ上ニ叙スルヲ如キ手數ハ盡ク之ヲ取扱ハ  
リ

英國内何レノ地方ニ於テ仕拂ヲ為スニ拘ハズ其  
回送ハ銀行主通例ノ事務トシテ容易ク之ヲ引受テ  
其費用ハ甚些細ニシテ悉皆之ヲ結了ス而シテ大緊  
ハ只帳簿ハ記入ヲ為シ一二ノ郵便ヲ用ウルノミ  
通例貨幣ノ道ヲ銀行ニ取ル所以テ視ルニ大抵預金  
ノ形況ニテ流入スルナリ右ノ預金ナルモノハ預金  
ノ旨意ニ随ヒ何時ニテモ之ヲ引出ストテ得ルキ  
其預金ノ銀行主ノ手ニ存スル間ハ全ク銀行主ノ掌  
握中ニ在ルヲ以テ銀行主ハ一旦自家ノ所有ニ歸シ



ル貨幣ヲ使用シ如何ナル利潤ヲモ得ベシ而シテ  
其得タル利潤ハ則チ必ス一国ノ利益ナルナリ縱令  
ヒ然ラカモ若シ銀行ニ入ルナキハ其貨幣  
空ク預人ノ掌裏ニ在リテ不産的ノ姿ニテ匣底ニ貯  
鎖セラレシノミ  
地主若シクハ資産ノ持主アリ國中各地ニ於テ若干  
ノ歳入ヲ徴収セシニ其収入スルヤ直チニ銀行主ニ  
命シテ之ヲ受取ラシメ需要ノ時ヲ待テ之ヲ使用ス  
ベシ其間ニ銀行主ハ安然確實ト視定スルナレハ  
其預金ヲ搬移ス是ヲ以テ一人些カニテ為ス所ノ若  
ハ斯ク銀行主之ニ代ト又不産的ニテ沈淪スル者ヲ  
轉シテ生産カアル姿ニ轉用シ其總額ノ非常ニ巨額  
ニ上ル逆ハ幾度トナク之ヲ運搬スルヲ得タリ是

廣大ナル銀行ノ方法ニヨリ英全國ノ享有スル最  
緊要ナル經濟利益ノ一部ヲ構成シタルナリ行方法  
ハ猶此上十分ニ廣大ニ得ラセキノ普ノ衆人  
龍動若シクハ郡邑ニ在ル私立銀行主合本銀行主  
事務モ其主義ニ於テハ毫モ異同アルナク孰レモ  
皆預リ金ヲ運搬スルニ格別ノ注意ヲ尽レ預人ヨリ  
逆ノ通知ナク凡預人ノ意ニ應シ直ニ引戻スヲ得  
キ所ニ使用セサル可ラズ而シテ此ノ一時ハ預金ハ  
利足ヲ付與スルノ銀行主ニ取リテ殊ニ免レ難キノ  
トトナス如何トナレハ一般人民ノ中殊ニ商業ニ關  
リタル人々ハ常ニ自己ノ資本ヲ使用スルヲ以テ  
賣上必需ノ外ニ多クノ金額ヲ利子ヲ付セサルノ銀  
行主ニ托スルナレバ無ル可シ縱令ヒ火クニ委托スル

鐵箱

其金高ハ債カニ銀行ノ勞役セシカ為タニ之ヲ謝  
スルニ足ル可シト思量スレニ止ル可シ之ニ及シ預  
金ニ利子ヲ付スルノ銀行主ハ債主アリテ永明ノ  
ケ金ヲナスヲ欲スルニ非レト金銀使用ノ好機會ヲ  
見出ス速テ當坐預ケ金ヲ為シ若干ノ金利ヲ占ルヲ  
希フ人々ヨリ多クノ預金ヲ獲ルヲアリ而シテ此苦  
ノ商人ノ使用ノ好機會ヲ得ルハ突然瞬息ノ間ニ起  
ルカ故ニ銀行主タルモノハ其預リ金ヲ使用スルニ  
特ニ注意ヲ加フルニ非レハ損失ナクシテ之ヲ正金  
ニ引換ユルハ容易ナラサルヲ一瞬間ニ起ルヲ  
ルベシ固ヨリ銀行營業ノ主義即チ金銀ノ使用ヲ節  
儉スルハ嘗テ却シタルモノヲ取テ直ニ正金ニ引換  
ルノカト而立併行レ難キハ銀行主ノ心ニ銘記ス可

キモノナルヲ以テナリ但シ余カ茲ニ論シタル者ハ  
預ケ人ヨリ返辨請求ノ一瞬間ヲ指テ言ヒタルナリ  
故ニ此際ニ當リ彼我ノ間ニ毫モ干礙ナキヲ得セル  
ハルハ則不産的ノ姿ニテ正金ヲ貯ヘ之ヲ不用ニ置  
キタル資本ニ依頼スルノミ然ト雖モ銀行各種ノ方  
法アレハ此準備ヲシテ無用ニ属セサラシムルヲ得  
ルハ余カ前ニ明示シタル所ナリ  
抑当国ニ於テハ悉皆合セテ幾許ノ金高アルヤヲ表  
示センカ為メニ從來種々ノ算勘ヲ為シ様々ノ布算  
ヲ為シタリキ然リ而シテ銀行紙幣ノ總高ハ幾許ナ  
ルヤヲ領知スルハ甚タ易マタリ一千八百七十二年  
第十二月二十八日ノ流通銀行紙幣ノ報告ニ據レ  
テ吉蘭嶺格薩及ニ愛耳蘭ノ三州ニテ各種ノ銀行紙

幣合セテ四千三百五十万磅ナリ然レモ金貨ノ總高ニ至ツテハ近似ノ高ヲ知ラント欲スルモ尙ホ容易ニナラザルナリ

一千八百六十七年英倫銀行ノ頭取ハ英國下院ノ委員ニ對シ自家ノ説ヲ吐露シテ曰ク金貨ノ總高ハ四千萬磅ヨリ五千萬磅ノ間ニアリト又此ノ旨趣ニ基ツキ特殊ノ注意ヲ為シタル英倫銀行前出納長ニレル氏ノ推考ニ據レバ當時金貨ノ高ハ八千萬磅ニ下ラズシテ銀貨ハ凡一億二千萬磅ナル可シト云ハリ余ハ此一題ニ関シ一説ヲ構成スル程ノ实例ヲ知ルヲナシト雖モ此ノ兩紳士ノ所見ハ兩ツチカラ誤謬ニ屬セリ而シテ真ノ總高ハ稍々ミルレル氏ノ算用ヨリ減スヘケレドモウエレイン氏ノ算用其算

ニ下サル  
ト思考セントスルナリ  
歸セスレテ及ニミルレル氏其實ニ近

今姑ク前説ヲ舍キ兎ニ角ニ若シ英全國ニ施用セテレター銀行ノ方法ヲカリセハ國中ニ要スル金銀ノ高ハ少ナクモ今日ニ倍蓰スヘキハ余カ曾テ疑ヲ懷カサル所ナレトモ尙余ハ前條同様ニ保証シテ誇張セントス若シ此ノ銀行ノ方法ヲキルハ當國ノ富實ト一般ノ繁榮トハ決テ今日ノ如キ非凡ナル極度ニ達スル能ハズト

茲ニ又銀行事務上ニ大關係アルモノトシテ論及セザル可ラザルノ一項アリ何ソヤ德義ノ性則多是ナリ  
人間ノ動作ノ密著シタル最モ貴重ナル性分即チ此

大義

徳義ナルハ固ヨリ錢貨ヲ以テ其價ヲ算シ得  
可キノ原質ニアラス此ノ錢貨ヲ以テ其價ヲ算ス可  
ラサル者ノ当國ノ銀行營業ノ主義ニ關涉スル實  
大ナルモノアリ凡覆載ノ間各國皆然ラサルヲ得カ  
ルベシ抑此徳義ナルモノハ何人ニ行モ深ク之ヲ養  
成シ之ヲ操持セシテ願フハ之ヲ得ル敢テ難キ  
ニアラサルノ性質ナルカ故ニ余カ茲ニ徳義ノ貴重  
ス可キニ付一二ノ説解ヲ與ヘ目下吾人ノ論説ト  
ナリ連結セシムルモ敢テ不適宜ナラサルハ余篤ク信  
シテ疑ハサル所ナリ  
吾人ノ世ニ在ルヤ各自額ニ汗シテ食スルハ是レ天  
帝ノ命スル所ナリ而シテ余ノ知ル所ニ據レハ吾人  
一生ノ活路ヲ經營スルノ間ニ於テ銀行ノ營業程

宗教ト徳義ノ二者ノ貴重ニ之ヲ實際ニ適用スルノ  
商賣ハアラサルナリ  
茲ニ人アリ天帝ノ斯民ヲ置ント欲シタル生活ノ地  
位ニ立テ只管材幹ト勉強トヲ用テ自家ノ義務ヲ  
行ヒ自身ノ本分ヲ尽サントテ願ヒ其人ト為リヤ真  
正ナル宗教ノ主義ヲ履踐シ決シテ現世ノ事物ニ惑  
溺シテ其本心ヲ失フトナク戦々競々日亦一日ト  
テ怠ルトナキノ人アレバ實義少ナキ手段ヲ以テ富  
巨萬ヲ累子篤實ト正廉トヲ假粧シテ動作スルノ人  
ヨリハ寧ロ前者ヲ以テ貨幣ノ使用ヲ為スニ恰好セ  
ル人ト為レ銀行主トナシテ永ク斯人ト取引シ  
テ望ム可シ  
夫ノ篤實ナルモノハ世ノ經濟學士與之ヲ稱賛シ

大義

又ナクニ勉強ト信用ト同一ノ價值ヲ有スル者ニ思  
考スルノ性質ナラスヤ而シテ吾輩ノ如キ商務ニ関  
係アル者取リテハ商人ノ誠実ナルハ最モ貴重ニ  
シテ實ニ他ノ良質ニ優ル方々ナルヲ知ルナリ  
古語ニ曰ク篤實ハ最上ノ計畧ナリト此一語ハ須ク  
各銀行ノ用所ニ掲ク可クシテ而シテ債主ノ間ニ  
信用ヲ得ンコトヲ希フ者ハ宜ク心ニ銘ス可キノ金言  
ト云フ可シ余カ此一項ノ論說ハ固ヨリ現世ノ事  
ニノミ限リテ之ヲ論シタルナリ且此ノ冊子ハ豈高  
尚ナル思想ヨリ起リタル篤實論ヲ緊要トスルノ論  
場ナランヤ  
幸ニ余カ説ク所ノ充分ニ諸子ヲ誘引シテ英國銀行  
ノ營業ハ要用ト節減ノ二者ニ鴻益アルヲ會得ヤシ

ノバ諸子ノ余カ論說ノ往ク枯瘦瑣屑ノ説ニ陥リタ  
ルヲ恕セシ然リト雖モ余論旨ハ毫厘モ吾人ニ裨益  
ナキニ非ルカ故ニ此ノ講堂ニ在テ一時間ノ思カテ  
費スニ敢テ無益ノ業ニアラザリレヲ了會セシ

○下篇小序

前篇ノ講義ハ英倫銀行通常事務ノ大畧ナリ余カ  
之ヲ講義スルノ主旨ハ銀行ノ便法ニ曰テ生出  
ル鴻益ト節儉ノ分解ヲ付與セントスルニ在  
然ルニ余カ是ノ講義ヲ開キタル以來數請求スル  
モノアリテ英國ニ限ラズ廣ク銀行ノ方法ニ關係  
アル者ノ為メニ英倫銀行ノ營業スル事務ニ程ノ  
上控シタル者ヲ以テ此等ノ諸人ニ得ヤレシメ  
ナ望ミ

歐洲ノ銀行ニ於テハ各國政府ノ注意ト政談家ノ  
意見ハ此ノ論點ニ歸着ニタルヲ以テ他ノ銀行ノ  
各自ノ方法ヲ改良スルノ參考ニ供セシカ爲メニ  
當銀行ノ各部ニ於テル所務ノ體裁ヲ知ルハ今日  
ニ於テ缺ク可テカルノトナレリ  
右ノ理由ナルカ故ニ余ハ全ク英倫銀行ノ之ニ係  
リタル一二ノ論說ヲ紙上ニ登記シ銀行ハ如何  
ル方法ヲ用キテ其分立シタル各部ノ竟ニ一緒ニ  
歸スルヤ又如何ナル方法ニ因テ零細ノ事務ヲ管  
ムヤヲ明示セントスルノ志アルナリ此書ハ固ヨ  
リ要領ヲ述ルノミ然レモ此書ノ論說ハ余前日ノ  
演說ヨリ甚タ精細ナルモアリ故ニ此書ハ余ノ  
講義ノ詳解分說ナルヲ以テ若シ其論說ヲシテ幸

ニ余ハ豫望スル所ニ達ハサラシメ千八百六  
十年ノ初頭ヨリ英倫銀行ニ於テ管ミタル事務  
程ハ略ホ正確ニ之ヲ網羅セシト自信スルカ故ニ  
我銀行書ノ内ニ編入スルモ肩テ慚愧ナシト言ハ  
ントス  
英倫銀行ハ一千六百九十四年ニ設立シタリ而シテ  
若干ノ特恩ト免税ハ同年七月二十七日付ノ英王第  
三世維廉カ准許シタル特許狀ヲ以テ保証スベキタ  
リ  
是ヨリ以後當銀行ノ事務ハ日月ニ増加シテ一百五  
十年間非常ノ廣大ヲ致シタリ而シテ千八百四  
年ニ於テ有名ナル條例ノ英全州銀行ノ管業ヲ規定  
凡現ニ當銀行ノ遵奉シテ管ム所ノ規則ヲ登記シタ

大藏省

ル條例ノ發出シタル以前ニ當銀行ノ方法ヲ變動シ  
タルハカ門各種ノ條例アリトモ今茲ニ之ヲ再説スル  
ハ恐ラクハ無用ニ属スルナリ故ニ復贅セス  
是ヨリ先キ<sup>千八百四十四</sup>年<sup>指ス</sup>英倫銀行ハ結社ノ人數六  
人ヨリ多カラサル私立銀行同様ノ制限ヲ立テスレ  
テ紙幣ヲ發行スルヲ得タリ而シテ何時ニテモ正金  
ニ引換ヌベシト紙幣ノ表面ニ明示シタル一言ノ墮  
ニ紙幣所持人ニ對シ信義ヲ失ハサラン<sup>テ</sup>ヲ欲シタ  
ル發行人ノ希望ト寸能ノミニテ保証シタル事ナリ  
キ然レニ千八百四十四年ノ條例ハ總テ自今新設ノ  
私立銀行又ハ合本銀行ノ發行ヲ禁止シ當時現ニ流  
通シタル紙幣ハ若干ノ高ヲ定メテ之ヲ畫リタリ  
余ハ此條例ノ箇條ヲ逐次ニ論及セントスルノ意ナ

キカ故ニ等ヲ爰ニ閣カントス唯其箇條ノ内ニ就キ  
當銀行ノ方法ヲ感動シタルモノヲ俾指センノ  
第一 紙幣發行部ヲ加設シタルヲ以テ紙幣ノ發  
行ハ全ク銀行部ト分離シタル是ナリ  
第二 公債証書ヲ抵当トシテ發行スル紙幣一千  
五百萬磅ノ外<sup>内一部ハ政府ヨリ</sup>銀紙幣ノ發行  
ハ銀行ノ貯蓄スル地金銀<sup>内分</sup>ノ高丈ニ  
制限シタル是ナリ  
第三 何人ニテモ金銀ヲ持參スルモノアレハ之  
ヲ買取ラサルヲ得ス之ヲ詳説スルハ若干ノ割合  
ヲ以テ銀行紙幣ト引換ニ何程ノ高ニテモ預ケ  
金トシテ必ス之ヲ受取<sup>是ナリ</sup>  
漸ノ如ク此ノ條例ハ可成丈金貨ハ英國通貨ノ本位

タルヲ保証シ流通ノ通貨ハ金貨ノ盈虚ニ従ヒ伸縮  
弛張スルヲ英國ノ貨幣ハ宛モ金貨ニテ成立シ  
タルカ如クナラシム且一般紙幣所持人ノ為メニ紙  
幣交換ノ保証トナシリ加梅紙幣ノ交換ハ發行部特  
別ノ方法アリテ何時ニテモ紙幣ヲ以テ貨幣ヲ請求  
スルノ權アリ且當部ヨリ毎週發行スル勘定昏ハ極  
メテ卑簡ノ文ヲ用弁一目シテ發行紙幣ノ高ハ發行  
部ニ於テ所持シタル地金ト同額ナルト及ヒ一千五  
百磅ハ公債証書ヲ抵当トシテ發行シタルヲ明亮ナ  
ラシマルニ依リ以テ其確實ナルヲ保証セリ  
紙幣發行ノ特恩ト免稅トナシテ銀行ハ毎年十九萬  
八千五百七十八磅ヲ政府ニ上納セリ然ル銀行ハ紙  
幣一千五百萬磅ノ外ニ紙幣發行ニ就キ曾テ一片ノ

利潤ナキノミナラズ此ノ一千五百萬磅ヨリ生シタ  
ル利益スラ年々政府ニ上納スル金高ト總紙幣ヲ造  
造シ之ヲ維持スルノ諸費トナシテ差引カ故ニ一千五百  
萬磅ノ外ニ發行シタル各紙幣ノ費用ハ全ク人民ノ  
利益ト便利トナシテ為シカ為メニ銀行カ自資ヲ費ヤ  
セシナリ  
右ノ外當銀行ハ政府ノ為メニ銀行主ノ職ヲ務メ英  
國ニ於テ証昏渡濟公債ノ取扱ヲ擔任ス而シテコノ  
職ヲ奉ルカ為メニ別ニ謝儀ヲ受取リ且當銀行ハ  
自家ノ利益ノ為メニ手廣ク龍動銀行通常事務ヲ取  
扱ヘリ  
次篇ニ於テ銀行ノ三部ハ如何ナル方法ニ目テ其事  
務ヲ取扱フ邊ニ混同シテ一縮ニ取算スル所ノ體裁



稍精密ニ論述センドク而シテ此ノ目達ヲ達スル  
ハ次ニ掲ケタル順序ヲ以テ尤モ簡便ト為ス

第一 國債部

第二 發行部

第三 銀行部

大  
蔵  
省

